

高等学校図書館におけるキャリア教育への支援

Supports for Career Education in High School Library

学籍番号：201621596

氏名：朝倉 美穂

Miho ASAKURA

学校におけるキャリア教育は、児童生徒が将来自立した一社会人として生きていくために必要な能力や態度、意欲をそれぞれの発達段階に応じ、生涯にわたって育てる教育である。特に高等学校におけるキャリア教育は、今日の急速な産業構造の変化や多様化する職業や雇用形態の中で、社会人としての自立を目前に控えた高校生にとって、担う役割が大きくなっている。一方、学校図書館は、学校の教育課程の展開に寄与することを設置の目的としており、また、近年は「学習センター」「情報センター」としての機能の充実に期待が高まっている。しかし、学校図書館のキャリア教育への支援に関する研究は殆どない。

そこで本研究では、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにし、高等学校のキャリア教育への効果的な支援について考察することを目的とする。研究方法は、文献調査及び、学校図書館担当者（司書教諭、学校司書）等への質問紙調査、聞き取り調査である。

研究結果より、高等学校図書館では、キャリア教育への支援として「資料提供」「調べ方の指導」「場の提供」の3つの支援が行われていることがわかった。そして、これらの支援をしっかりと行っている高等学校では、生徒の意識・意欲の向上や、関心度の向上がみられ、また学校図書館の支援が生徒の進路を考える上での一助となり、キャリア教育が目指す「基礎的・汎用的能力」の育成につながっていることが明らかになった。さらに、キャリア教育への支援をきっかけに、学校図書館の利用が促進されるという効果もみられた。学校図書館がキャリア教育への効果的な支援をするためには、「学校の教育方針としてのキャリア教育の推進と、教育課程への学校図書館の位置付け」「学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能の充実」「学校図書館担当者の十分な資質・能力と、学校や生徒の実態に合わせた支援」が必要であることも明らかになった。しかし、学校図書館のキャリア教育への支援は、その継続性という点には課題が残る。その改善には、高等学校3年間に渡る体系的な計画と、その計画への学校図書館の位置付けを明確にする必要がある。さらに学校図書館担当者の資質・能力向上のための研修に加え、特に学校司書が職員会議に参加するなど学校教育を担う一員としての立場の保障が望まれる。

研究指導教員：平久江 祐司

副研究指導教員：大庭 一郎

高等学校図書館におけるキャリア教育への支援

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2018年3月

朝倉 美穂

目次

第1章 序論

1.1 研究背景	p.1
1.2 先行研究	p.2
1.3 研究の目的	p.3
1.4 研究手法	p.3
1.5 論文の構成	p.4
1.6 本論文における用語の定義	p.4

第2章 学校教育におけるキャリア教育の導入と経緯

2.1 日本の教育政策にみるキャリア教育	p.7
2.2 キャリア教育で育成される能力	p.9
2.3 キャリア教育の現状と課題	p.12
2.4 まとめ	p.12

第3章 学校図書館のキャリア教育における支援

3.1 学校教育における学校図書館の役割	p.16
3.2 学校図書館担当者の役割と資質	p.17
3.3 学校図書館のキャリア教育への支援	p.20
3.4 まとめ	p.21

第4章 高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題

4.1 質問紙調査の概要	
4.1.1 質問紙調査の目的	p.23
4.1.2 質問紙調査の方法	p.23
4.1.3 質問紙調査の対象	p.23
4.2 質問紙調査結果の分析	
4.2.1 回答者の学校図書館での立場	p.24
4.2.2 キャリア教育の実施状況	p.25
4.2.3 キャリア教育の具体的な内容	p.26
4.2.4 学校図書館のキャリア教育への支援の実施状況	p.27
4.2.5 学校図書館のキャリア教育への支援の内容	p.28
4.2.6 学校図書館担当者の立場によるキャリア教育支援の実施状況	p.40
4.2.7 特徴的な支援をしている学校図書館の事例	p.42

4.3	まとめ	p.48
第5章 高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援と課題		
5.1	聞き取り調査の概要	
5.1.1	聞き取り調査の目的	p.52
5.1.2	聞き取り調査の方法	p.52
5.1.3	聞き取り調査の対象	p.52
5.1.4	聞き取り調査の項目	p.53
5.2	聞き取り調査結果の分析	
5.2.1	効果的な支援を行っている学校図書館の事例	p.54
5.2.2	支援に課題を抱えている学校図書館の事例	p.68
5.2.3	聞き取り調査結果の分析	p.70
5.3	まとめ	p.73
第6章 結論		
6.1	研究の要約	p.75
6.2	考察	p.76
6.3	今後の課題	p.77
	謝辞	p.79
	参照文献・参考文献リスト	p.80
	付録	p.85

表の目次

・表 2-1	高等学校卒業者の進路状況	p.9
・表 2-2	キャリア教育に関わる諸能力	p.10
・表 2-3	基礎的・汎用的能力	p.11
・表 2-4	基礎的・汎用的能力の具体的な要素例	p.11
・表 3-1	司書教諭の発令状況	p.18
・表 3-2	学校司書の配置状況	p.18
・表 3-3	学校図書館担当職員（学校司書）に求められる役割・職務	p.18
・表 3-4	学校図書館担当職員の職務	p.19
・表 3-5	学校図書館担当職員にもとめられる資質能力	p.20
・表 4-1	回答者の立場	p.24
・表 4-2	キャリア教育の実施状況	p.25
・表 4-3	キャリア教育の内容	p.26
・表 4-4	学校図書館のキャリア教育への支援	p.27
・表 4-5	キャリア教育関連図書 所蔵冊数の分布	p.29
・表 4-6	資料の生徒の利用状況	p.31
・表 4-7	展示コーナーの設置状況	p.32
・表 4-8	ツール類作成状況	p.33
・表 4-9	連携した活動の実施状況	p.34
・表 4-10	図書館以外での資料の配置	p.36
・表 4-11	図書館以外の配置場所	p.37
・表 4-12	回答者の立場とキャリア教育支援の実施状況	p.40
・表 4-13	回答者の立場と連携した活動の実施状況	p.41

図の目次

・ 図 2-1	高等学校卒業者の進路状況	p.9
・ 図 4-1	回答者の立場	p.24
・ 図 4-2	キャリア教育の実施状況	p.25
・ 図 4-3	キャリア教育の内容	p.26
・ 図 4-4	学校図書館のキャリア教育への支援	p.27
・ 図 4-5	キャリア教育関連図書 所蔵冊数の分布	p.29
・ 図 4-6	資料の生徒の利用状況	p.31
・ 図 4-7	展示コーナーの設置状況	p.32
・ 図 4-8	ツール類作成状況	p.33
・ 図 4-9	連携した活動の実施状況	p.34
・ 図 4-10	図書館以外での資料の配置	p.36
・ 図 4-11	図書館以外の配置場所	p.37
・ 図 4-12	回答者の立場とキャリア教育支援の実施状況	p.40
・ 図 4-13	回答者の立場と連携した活動の実施状況	p.41
・ 図 5-1	はじめての新書	p.56
・ 図 5-2	高校生向けの読みやすい新書	p.57
・ 図 5-3	志望系統別おすすめ新書 人文科学系	p.58
・ 図 5-4	志望系統別おすすめ新書 社会科学系	p.58
・ 図 5-5	志望系統別おすすめ新書 教育・福祉系	p.59
・ 図 5-6	志望系統別おすすめ新書 自然科学系	p.59
・ 図 5-7	志望系統別おすすめ新書 医・薬・看護系	p.60
・ 図 5-8	志望系統別おすすめ新書 国際関係・情報系	p.60
・ 図 5-9	志望系統別おすすめ新書 工学・建築系	p.61
・ 図 5-10	志望系統別おすすめ新書 芸術・スポーツ系	p.61
・ 図 5-11	新書の書架 岩波新書	p.62
・ 図 5-12	新書の書架 岩波ジュニア新書	p.62
・ 図 5-13	リストで紹介した新書のブックトラック	p.62
・ 図 5-14	高校1年生 企業訪問ガイダンス 資料	p.66
・ 図 5-15	新書書架 案内表示	p.67
・ 図 5-16	新書の書架	p.67

第1章 序論

本論文は、高等学校図書館のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにするために行った文献調査、質問紙調査、聞き取り調査の結果から、高等学校のキャリア教育への効果的な支援について考察したものである。

1.1 研究背景

情報技術の革新によりもたらされたグローバリゼーションや知識基盤社会、少子高齢化の進展により、産業や経済の構造は大きく転換しつつある。こうした産業構造の変化に対応し一人ひとりが自立した社会人としてより幸福な人生を送っていくことができるよう、学校教育で生徒が自己のキャリア形成について学習していくことが必要となっている。そのため、近年学校教育におけるキャリア教育（Career Education）の重要性が高まっている。さらに、一社会人としての自立を目前に控えた高等学校においては、生徒の就職、進学等の進路選択に関わらず、キャリア教育の担うところは大きい。

一方、学校図書館は、学校図書館法（法律第 185 号）第二条により「学校において、図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」と定められている。そして学校図書館は、学校における「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの役割を担っている。

2016年に出された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の第7章では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた視点の1つとして、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現」¹をあげている。これは、まさにキャリア教育で担う学びであると考えられる。さらに「「主体的・対話的な学び」の充実に向けては、「読書活動のみならず、子供たちが学びを深めるために必要な資料（統計資料や新聞、画像や動画等も含む）の選択や情報の収集、教員の授業づくりや教材準備等を支える学校図書館の役割に期待が高まっている」²としている。従って、キャリア教育で目指している教育の実現のためには、学校図書館の果たすべき役割は小さくないといえる。

しかし、高等学校図書館のキャリア教育への支援に関する研究は殆どない。学校図書館がキャリア教育への支援をすることにより、生徒のキャリア形成における主体的な学びを支えることができると考えられる。そして、その支援の在り方を究明することは、学校の教育課程の展開に寄与するという学校図書館の設置の目的から鑑みて大きな意味がある。

これらのことから、本研究では、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにし、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察することを目的とする。

1.2 先行研究

これまで学校図書館の教科への支援や、教科との連携に関する研究は数多くされてきた。しかし、学校図書館のキャリア教育への支援や連携に関する研究は殆ど見られない。そうした中で、本研究を進めるにあたり根拠となる論文を以下に2点示す。

- (1) 二俣潤也. キャリア教育における学校図書館の活用：聖パウロ学園高等学校の実践から. 学校図書館研究. 2012, vol4, p.125-131. ³

この研究は、学校図書館と進学指導部が連携して行ったキャリア教育の実践研究である。キャリア教育の小論文指導において学校図書館の活用により、基礎的・汎用的能力の向上がみられるという教育的効果を明らかにしている。一方、学校図書館とキャリア教育を司る進学指導部や学年との連携は、教科との連携以上に密接に連絡をとる必要があり、両者が連携する上での校務分掌の壁の存在を問題点として指摘している。そして、学校図書館の支援が最大限の効果を生むためには、学校全体に学校図書館が果たす役割を明らかにする必要があるとしている。しかし、この研究は様々なキャリア教育の中の小論文指導での学校図書館の活用の効果についてであり、他のキャリア教育への支援の効果はわからない。さらに校務分掌との連携の難しさは指摘しているが、その要因や解決策は解明されていない。これらの解明は今後のキャリア教育に対して学校図書館が支援を行う上での重要な課題といえる。

また、二俣の研究において、学校図書館の活用によるキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」における教育的効果が明らかにされたが、二俣はこの「基礎的・汎用的能力」は探求型学習で培われる能力（課題設定、情報収集、整理分析、発表という一連の能力）と相違ないとしている。そして探求型学習における学校図書館の活用の効果は、以下の研究で明らかにされている。

- (2) 浅野真紀子. 平久江祐司. 探求的な学習における学校図書館の支援の在り方. 図書館情報メディア研究. 2016, vol.14, no.1, p.1-20. ⁴

この研究では、高等学校の総合的な学習の時間等で行われる探究的な学習への学校図書館の支援について、進路指導課と学校図書館の協働による学習支援プログラムから評価し、考察している。学習支援プログラムは、進学先決定後の高校3年生の学習意欲を継続させる目的で、進学する学科に関するテーマのレポートを作成し発表会をするもので、進路指導課による特別活動として位置付けられている。この特別活動における学習支援プログラ

ムは、キャリア教育という言葉こそ使われていないが、高等学校で行われているキャリア教育まさにそのものである。そして、この探究的な学習における学校図書館の学習支援は、生徒の学習の質的向上に貢献することができること、探究的な学習の促進において教員と学校司書の協働が重要であることを明らかにしている。さらに、今後の課題として、教員と司書教諭や学校司書の協働の役割分担や内容等の協力体制を吟味する必要性に言及している。

これらの先行研究から、キャリア教育の小論文指導や、レポート作成・発表において、学校図書館の支援による教育的効果が明らかにされた。しかし、近年ますます重要視され、各学校独自の取り組みとして進められている高等学校のキャリア教育に関して、学校図書館の支援がどのように行われているのか調査し、現状と課題を究明する必要があると考えた。そして、2つの先行研究で課題とされている、連携する上での学校図書館の役割や、学校図書館担当者と教員や分掌との協働の在り方を解明することで、学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察する。

1.3 研究の目的

本研究では、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにし、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察することを目的とする。

1.4 研究手法

本研究では3つの研究手法をとる。

まず、キャリア教育に関わる文部科学省の答申や学習指導要領等の文献調査により、主に教育政策面から日本の学校教育におけるキャリア教育の導入と経緯を明らかにする。さらに、近年の学校図書館に係る法律改正や文部科学省の報告等の動向から、学校図書館の学校教育における役割や学校図書館担当者の役割と資質を明らかにし、学校図書館のキャリア教育への支援について考察する。

2番目に、高等学校図書館で行われているキャリア教育への支援の現状と課題を明らかにするために、高等学校の学校図書館担当者を対象とした質問紙調査を行う。調査項目は筆者が作成し郵送する。返送された質問紙を集計・分析する。

3番目に、質問紙調査の結果から、効果的なキャリア教育への支援や、学校図書館とキャリア教育との連携した活動が行われていることがわかった高等学校の学校図書館担当者に聞き取り調査を行う。聞き取り調査は、筆者が調査校の学校図書館を直接訪問し、学校図書館担当者に対してインタビューを行う。この聞き取り調査により、効果的な支援や連携の在り方を考察することを目的としている。

また、質問紙調査から、キャリア教育への支援を行っているが、効果的な支援になっていない、支援に課題がありキャリア教育担当教員と連携した活動ができていないことがわかった学校図書館担当者とキャリア教育担当教員に聞き取り調査を行う。この調査も、筆者が調査対象の高等学校及び学校図書館を訪問し、教員及び学校図書館担当者にインタビューを行う。これは、先行研究で指摘されていた学校図書館のキャリア教育への支援に関する校務分掌との連携や、教員と学校図書館担当者の協働における課題を解明することを目的としている。そのため、学校図書館担当者だけではなく、連携する対象の教員にも聞き取り調査を行う。

そして、これらの調査から高等学校図書館におけるキャリア教育への支援の現状と課題を明らかにし、効果的な支援について考察する。

1.5 論文の構成

第1章では、研究の背景、目的等、本研究の概要を述べる。

第2章では、日本の学校教育におけるキャリア教育について、主に文部科学省の答申や学習指導要領等の教育政策面から整理する。

第3章では、学校教育における学校図書館の役割と、学校図書館担当者の役割及び資質について、近年の学校図書館に係る法律改正や文部科学省の報告等から整理する。

第4章では、本研究で行った質問紙調査結果の分析により、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を述べる。

第5章では、本研究で行った聞き取り調査結果の分析により、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援と課題について述べる。

第6章では、本研究から導き出された高等学校図書館におけるキャリア教育への支援について、結論と今後の課題を述べる。

1.6 本研究における用語の定義

本研究では、「キャリア教育」「学校図書館担当者」を以下の通り定義する。

「キャリア教育」とは中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」で示された、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリアの発達を促す教育である」⁵と定義する。そして、このキャリアとは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」⁶であるとする。

この答申で定義されたキャリア教育は、渡辺三枝子の「キャリア教育とは、児童生徒が、将来、社会人・職業人として自立的に生きていくために必要な能力や態度・意欲を段階的に発達させることを目標とする教育改革の理念であって、キャリア教育とよばれる特別の活動やプログラムを創設することではない」⁷と理解することができる。

「学校図書館担当者」とは、主に「司書教諭」と「学校司書」の職種を指すものとする。
「司書教諭」とは、学校図書館法 第五条で定めるところの「学校図書館の専門的職務を掌る教諭」である。「学校司書」とは、学校図書館法 第六条で定めるところの「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員」である。

-
- 1 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）. 2016-12-21.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf,(参照 2018-01-08) .
 - 2 前掲 1
 - 3 二俣潤也. キャリア教育における学校図書館の活用:聖パウロ学園高等学校の実践から. 学校図書館研究. 2012, vol4, p.125-131.
 - 4 浅野真紀子. 平久江祐司. 探求的な学習における学校図書館の支援の在り方. 図書館情報メディア研究. 2016, vol.14, no.1, p.1-20.
 - 5 中央教育審議会. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）. 2011-01-31.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf,(参照 2018-01-08).
 - 6 前掲 5
 - 7 渡辺三枝子. 学校教育とキャリア教育の創造. 学文社. 2010, 176p.

第2章 学校教育におけるキャリア教育の導入と経緯

本章では、学校教育におけるキャリア教育について、文部科学省の答申や学習指導要領等、主に教育政策面からその導入と経緯を整理し、現状と課題を述べる。

2.1 日本の教育政策にみるキャリア教育

キャリア教育は、1971年、アメリカ連邦教育局長官マーランド（S.P.Marland.Jr.）が、従来の職業教育を改革し学校教育を見直すために「キャリア教育」という言葉を使ったことにより、教育界にもたらされた。^{1,2}

日本では、新規学卒者のフリーター志向の広がりや就職後3年以内の早期離職者の増加に対する学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策が求められ、1999年に中央教育審議会答申「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について」が出された。この中で初めてキャリア教育という言葉が使われ、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技術を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」³とされ学校教育に導入されていくことになる。

その後、2001年に国立教育政策研究所に設置された「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究会議」、2002年に文部科学省に設置された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」を経て、2003年「若者自立・挑戦プラン」が策定される。この「若者自立・挑戦プラン」の中で、キャリア教育は「勤労観・職業観の醸成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、子どもの発達段階を踏まえた組織的・系統的なキャリア教育（新キャリア教育プラン）を推進する」⁴と位置付けられた。さらに、2004年に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために」⁵により、各学校段階でキャリア教育により身に付けさせたい具体的な能力が示され、学校教育におけるキャリア教育の必要性や意義の理解が広まっていった。

また2006年改正の教育基本法（法律第120号）では、キャリア教育の目標として「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」（第2条2号）が明記された。さらに2007年改正の学校教育法（法律第26号）では、義務教育として行われる普通教育の目標として「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」（第21条10号）が掲げられた。これらを受け、2009年、現行の高等学校学習指導要領の総則では、キャリア教育について「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的・計画的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること」⁶として、進路指導の内容の重要な柱とされた。

そして2011年には、社会的な構造変革による教育、雇用・労働を巡る新たな課題に対応

し、人々の生涯にわたるキャリア形成を支援する観点から、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が出された。この中で、キャリアとは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」⁷であるとして、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリアの発達を促す教育である」⁸と定義した。この社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力としては、「基礎的・汎用的能力」の育成が示された。1999年の答申で進路を選択することに重点が置かれていたキャリア教育は、この答申以降、能力や態度の育成がより重視されたものになった。また、幼児期から高等教育までの体系的なキャリア教育の必要性も示された。高等学校におけるキャリア教育の重要性については「社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校におけるキャリア教育の充実は、喫緊の課題である」⁹としている。

さらに2013年6月に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」では、「幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、特に、高等学校普通科におけるキャリア教育を推進する」（基本施策13）¹⁰としている。そして、学習指導要領改訂に向けた2016年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「第8章 3. キャリア教育（進路指導を含む）」において「高等学校においても、小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、特別活動のホームルーム活動を中核とし、総合的な探究の時間や学校行事、公民科に新設される科目「公共」をはじめ各教科・科目等における学習、個別指導としての進路相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて行うことが求められる」¹¹とあり、キャリア教育のより一層の進展が図られている。この内容は、今年度中に出される予定の高等学校新学習指導要領に反映されることが見込まれる。

また、2015年から、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革である高大接続改革が進められている。2016年に出された高大接続システム改革会議「最終報告」では、「高大接続の観点からは、高等学校卒業後もキャリア形成に向けての学びが継続していくように大学進学等の進路選択が行われることが重要」¹²とある。文部科学省の学校基本調査¹³によると、表2-1、図2-1にあるように、2017年5月1日現在、高等学校卒業者の大学・短期大学進学率（現役）は54.8%、専門学校を含めた高等教育機関進学率は71%に及ぶ。これらのことから高等学校では、高大接続改革も視野に入れたキャリア教育が必要となっているといえる。

表 2-1 高等学校卒業者の進路状況

進路状況	割合 %
大学・短期大学進学	54.8
専門学校進学	16.2
就職	17.7
一時的な仕事に就いた	0.7
進学も就職もしていない	4.7
その他	5.9

(出典 「平成 29 年度 文部科学省 学校基本調査」¹⁴ の値より作成)

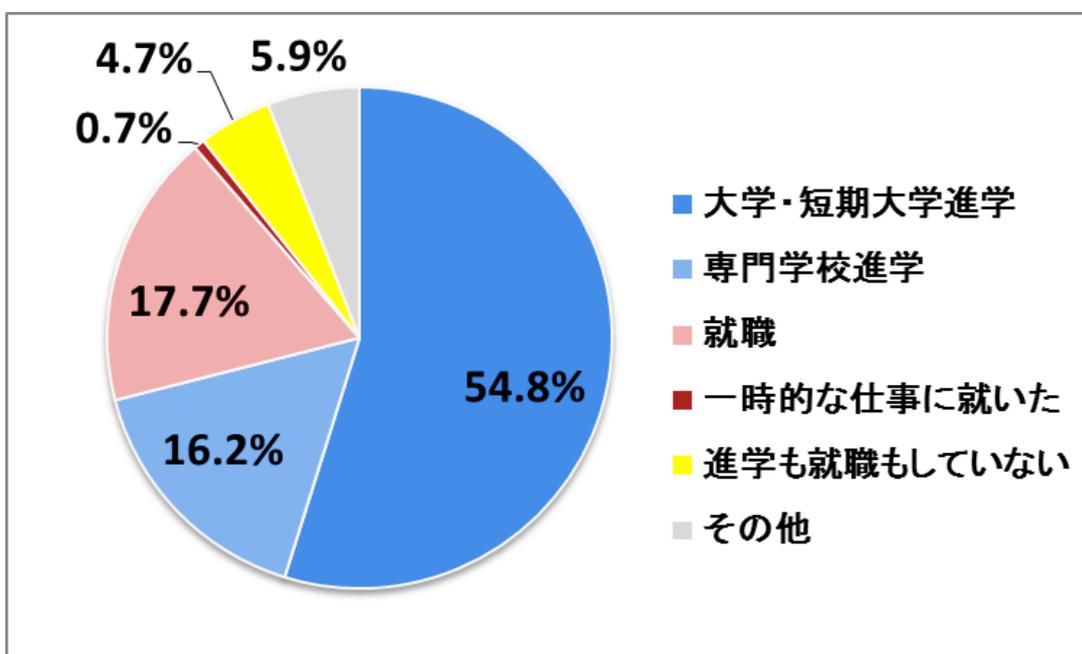


図 2-1 高等学校卒業者の進路状況

(出典 「平成 29 年度 文部科学省 学校基本調査」¹⁵ の値より作成)

2.2 キャリア教育で育成される能力

2004 年に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために」で示された「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例) - 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から」¹⁶によると、表 2-2 にあるように、キャリア教育で生徒に身に付けさせたい能力として 4 領域・8 能力が示されている。

表 2-2 キャリア教育に関わる諸能力

能力領域	能力
人間関係形成能力	自他の理解能力
	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力
	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力
	計画実行能力
意思決定能力	選択能力
	課題解決能力

(出典 「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例) - 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から」¹⁷より抜粋して作成)

例えば、情報活用能力領域の情報収集・探索能力とは、「進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必用な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力」¹⁸と説明されている。そして、高等学校で育む具体的な能力として、「卒業後の進路や職業・産業の動向について、多角的・多面的に情報を集め検討する」¹⁹「職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる」²⁰などが期待されている。

しかし、2011年に文部科学省より出された「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」によると、この4領域8能力は、各能力の語感・印象のみに基づく解釈がされることもあり、「本来目指された能力との祖語」²¹がみられるようになった。また、この4領域8能力においては、大学や社会のケースが示されておらず、将来にわたるキャリア発達を促すためのキャリア教育の基盤が、初等・中等教育と高等教育との間での一貫性・系統性が保持されにくい状況も生じたとして「生涯にわたって育成される一貫した能力論の欠落」²²が指摘された。これらをふまえ、同報告書では、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」²³で示された「基礎的・汎用的能力」を、今後のキャリア教育を通して中心として育成すべき能力としてあげている。「基礎的・汎用的能力」は、「仕事に就くこと」に焦点をあて、実際の行動として現れるという観点から、以下の表2-3に示すように4つの能力に整理された。また、各能力の具体的な要素の例は表2-4に示す。この答申ではさらに、これらの能力は、前出の4領域・8能力を包含するものであり、学校や地域の特徴、児童・生徒の発達段階に即して、各学校の教育の中で参考として活用されるべきものとして示している。

表 2-3 基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力
自己理解・自己管理能力
課題対応能力
キャリアプランニング能力

(出典 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」²⁴より作成)

表 2-4 基礎的・汎用的能力と具体的な要素例

能力	具体的な要素の例
成人能力・人間関係形成	コミュニケーション・スキル
	チームワーク
	リーダーシップ
自己理解・自己管理	自己の役割の理解
	前向きに考える力
	自己の動機付け
	忍耐力
	ストレスマネジメント
	主体的な行動
課題対応能力	情報の理解・選択・処理
	本質の理解
	原因の追究
	課題発見
	計画立案
	実行力
	評価・改善
キャリアプランニング能力	働くこと・学ぶことの意義や役割の理解
	多様性の理解
	将来設計
	選択
	行動と改善

(出典 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」²⁵より作成)

2.3 キャリア教育の現状と課題

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センターの「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書」²⁶、「第二次報告書」²⁷ から、高等学校におけるキャリア教育の現状と課題をまとめる。キャリア教育の全体計画は 7 割、年間指導計画は 8 割の学校で作成されている。一方、担任調査では、「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」「キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない」という回答がそれぞれ 3 割を超えている。さらにキャリア教育に関する校内研修に「参加したことがない」担任が 5 割に及ぶ。また普通科、商業科などの学科により「組織体制」や「就業体験などの体験活動の実施状況」にも大きな違いがみられる。一方、生徒・保護者からは「就職後の離職・失業など、将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応に関する学習」への要望が高いが、それらの要望には十分に応えられていないことがわかる。この調査結果をふまえ、藤田晃之は「子どもたちの発達段階に即しつつ、卒業後に生起する社会生活上のリスクも含めて、人生を広く見越したキャリア教育実践の拡充が必要である」²⁸と述べている。

また、リクルート進学総研の「2016年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書²⁹によると、全国の全日制高校 4,807 校の進路指導主事に行った調査で、キャリア教育の実施状況は 97.4%となっている。また、同調査によるキャリア教育の実施時間は、「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」が上位をしめ、その他、普段の学校生活・長期休業・日常の教科・部活動や行事など幅広い時間に実施されている。このことから、キャリア教育は、多くの高校で様々な時間に取り組みされているといえる。しかし、同調査では、高校進路指導教員の 91.9%が、進路指導が難しいと回答しており、その要因として「入試の多様化」「教員が進路指導を行うための時間の不足」が挙げられている。

キャリア教育の重要性がいわれているなか、教育現場には未だにキャリア教育に対する戸惑いや理解不足も少なくない。さらに、入試の多様化や、働き方の変化など、加速度的に変わっていく社会の状況に、教員が対応するのが難しい、対応する時間がとれないなどの問題がみられる。

2.4 まとめ

学校教育におけるキャリア教育は、1999年の答申で示された「勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる教育」から、現在はそれらに加え「基礎的・汎用的能力としてのキャリアを育む教育」として位置付けられている。キャリア教育とは、児童生徒が、将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、意欲をそれぞれの発達段階に応じて、生涯にわたって育てる教育である。キャリア教育は、ひとつの教科や活動に特化した教育ではなく、学校の様々な教育活動の中で行われるものである。従来の進路指導や職業教育も含めて、一人ひとりの生き方を考える教育であり、地域

や学校の特色や、発達段階に応じて柔軟に取り組むべきものである。また、小学校・中学校・高等学校の中だけではなく、幼児教育から高等教育機関まで、継続的・体系的に行われることがのぞましい。

子どもたちを取り巻く社会状況を見ても、学校教育におけるキャリア教育の重要性が増している。特に、将来の進路選択を迫られる高等学校において、キャリア教育の担う役割は大きい。しかし教育現場では、担任から「キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない」「キャリア教育に関する校内研修に参加したことがない」などの声が出ており、キャリア教育に対する教員の理解不足が問題となっている。さらに、「キャリア教育を実施する十分な時間の確保ができない」という課題もみられる。また、生徒や保護者からは、「将来起こりうる人生上の諸リスクへの対応に関する学習」への要望が高いが、現在のキャリア教育は、それらの要望に十分に答えられていないのが現状である。大学の学部や入試制度はますます多様化している。産業構造の急速な変化により、職業や雇用の変化も予測が付きにくいものになっている。公職選挙の選挙権は、2016年に20歳から18歳に引き下げられた。近い将来、一社会人として自立していく高校生にとって、これらの変化に対応したキャリア教育が必須であるといえる。

-
- 1 新版 現代学校教育大事典. ぎょうせい. 2003
 - 2 KENNETH B.HOYT. キャリア教育 歴史と未来. 雇用問題研究会. 2005, 278p.
 - 3 中央教育審議会. 今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について (答申). 1999-12-16.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/001.htm, (参照 2018-01-08).
 - 4 若者自立・挑戦戦略会議. 文部科学省. 厚生労働省. 経済産業省. 内閣府. 若者自立・挑戦プラン. 2003-06-10.
<http://www.meti.go.jp/topic/downloadfiles/e40423bj1.pdf>, (参照 2018-01-08).
 - 5 文部科学省. キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために. 2004-01-28.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/010.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 6 文部科学省. 高等学校学習指導要領. 2009-03.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 7 中央教育審議会. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申). 2011-01-31.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 8 前掲 7
 - 9 前掲 7
 - 10 文部科学省. 第 2 期教育振興基本計画. 2013-06-14.
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/133637_9_02_1.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 11 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申). 2016-12-21.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 12 文部科学省. 高大接続システム改革会議「最終報告」. 2016-03-31.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 13 文部科学省. 平成 29 年度学校基本調査 (速報値) の公表について. 2017-12-22.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/12/22/1388639_1.pdf, (参照 2018-01-08).

- 14 前掲 13
- 15 前掲 13
- 16 前掲 5
- 17 前掲 5
- 18 前掲 5
- 19 前掲 5
- 20 前掲 5
- 21 文部科学省. 国立教育政策研究所. キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査
研究報告書. 2011-03.
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryou/pdf/career_hattatsu_all.pdf,
(参照 2018-01-08).
- 22 前掲 21
- 23 前掲 7
- 24 前掲 7
- 25 前掲 7
- 26 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター. キャリア教育・進路指導に関する
総合的実態調査 第一次報告書. 2013-03.
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pdf/ver_all.pdf,
(参照 2018-01-08).
- 27 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター. キャリア教育・進路指導に関する
総合的実態調査 第二次報告書. 2013-10.
http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pdf_2/rpt-all.pdf,
(参照 2018-01-08).
- 28 藤田晃之. キャリア教育基礎論 正しい理解と実践のために. 実業之日本社. 2014, 299p.
- 29 リクルート進学総研. 「2016年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書.
2017-02.
<http://souken.shingakunet.com/research/2016shinrohokoku.pdf>, (参照 2018-01-08).

第3章 学校図書館のキャリア教育に対する支援

本章では、学校図書館のキャリア教育への支援に関わる、学校図書館の役割や学校図書館担当者の役割を述べる。

3.1 学校教育における学校図書館の役割

学校図書館の設置の目的は、学校図書館法により「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」であると定められている。

学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議が、2016年10月に出した報告「これからの学校図書館の整備充実について」（以後、報告とする）によると、「学校図書館が育てる力は、児童生徒の「生きる力」の育成に資するものであり、さらには、生涯にわたる学習の基盤形成につながるものである」¹としている。

学校図書館は、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を有する。「読書センター」とは、「児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場」²として機能することである。「学習センター」とは、「児童生徒の自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする」³機能である。「情報センター」とは、「児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする」⁴機能である。

2017年3月に公示された小学校及び中学校の新学習指導要領では、「何を学ぶのか」に加え、「どのように学ぶか」ということにポイントがおかれ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善）^{5,6}の方針が出された。さらに、今年度中に公示予定の高等学校の新学習指導要領でも同様の方針が示されることが、これに先だって出された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」により予測される。児童生徒は、自分で課題を設定し、解決するために、様々な資料から必要な情報を収集・選択し、活用していくことが求められている。その中で、学校図書館は、「子供たちの言語能力、情報活用能力、問題解決能力、批判的吟味力等の育成を支え、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点からの学び）を効果的に進める基盤としての役割が一層期待されている」⁷と報告でもいわれており、近年特に、「学習センター」「情報センター」としての機能の充実が注目されている。

3.2 学校図書館担当者の役割と資質

学校図書館担当者には、主に司書教諭と学校司書の2つの職種がある。

1997年の学校図書館法の改正により、12学級以上の学校に司書教諭が配置されることが義務付けられた。同法律により司書教諭は、文部科学大臣の委嘱を受けた大学等で司書教諭の講習を修了した主幹教諭等をもって充てるとされている。その職務は、学校図書館の専門的職務をつかさどり、学校図書館の運営や学校図書館を活用した教育活動の企画、実践をする。具体的には、学校経営方針に基づいた学校図書館の年間読書指導計画や年間情報活用指導計画等の立案をする。また、学校全体に学校図書館に関わる業務を周知し、教員や分掌との連絡調整等を行う。さらに、学校図書館を活用した授業を行うだけでなく、学校図書館を活用した授業のコーディネイト役も担う。

一方、学校司書は、2014年の学校図書館法の改正により法制化された。同法律で学校司書は、「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員」と定められている。学校司書は、学校図書館を運営するために必要な専門的・技術的職務に携わる。さらに、学校図書館を活用した授業や教育活動を、司書教諭や教員と協働して行う。

報告では、「学校図書館における図書館資料の充実と、学校図書館の運営にあたる司書教諭及び学校司書の配置の充実やその資質能力の向上の双方を図ることが極めて重要である」⁸としている。しかし、司書教諭は有資格者であるが、学校司書という資格はないため、現在、学校図書館担当者として勤務している学校司書が、司書または司書教諭の資格保持者であるとは限らない。学校図書館担当者は、採用する学校や自治体により、図書館法上の司書や司書教諭の資格、経験等を採用条件として課している場合と、そうでない場合があり、知識や技能の状況は様々である。そのため学校図書館担当者に求められる知識・技能を整理し、専門的知識・技能を習得できる望ましい科目・単位数等を示す「学校司書のモデルカリキュラム」が報告で作成された。

また、この報告で示された「学校図書館ガイドライン」によると、学校司書は、児童生徒や教員への「間接的支援」「直接的支援」に関する職務に加え、教育目標を達成するための「教育指導への支援」に関する職務が求められるようになっている。さらに、「学校司書がその役割を果たすとともに、学校図書館の利活用が教育課程の展開に寄与するかたちで進むようにするためには、学校教職員の一員として、学校司書が職員会議や校内研修等に参加するなど、学校の教育活動全体の状況も把握した上で職務に当たることも有効である」⁹としている。

以上のことより、学校図書館には、知識・技能を身に付けた学校図書館担当者が配置されることが期待されているが、文部科学省の平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」¹⁰によると、平成28年4月1日現在の高等学校における司書教諭の発令状況と学校司書の配置状況は、以下の表3-1、表3-2の通りである。

表 3-1 司書教諭の発令状況

	割合
国立	64.7%
公立	87.0%
私立	79.6%
合計	84.5%

表 3-2 学校司書の配置状況

	配置学校数	割合
国立	13校	76.5%
公立	2,349校	66.9%
私立	915校	66.4%
合計	3,279校	66.6%

(出典 文部科学省. 平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」¹¹より作成)

表 3-1、表 3-2 からわかるように、学校図書館担当者の配置状況は、まだ十分ではないといえる。そのため文部科学省は、2017 年度から第 5 次「学校図書館図書整備等 5 か年計画」¹²をスタートし、学校図書館資料の充実、新聞の配置に加え、学校司書の配置についても地方財政措置として予算を計上している。

では実際に、学校図書館担当者に求められる役割と職務について、「これからの学校図書館担当者に求められる役割・職務及びその資質能力の向上について」¹³より、学校図書館の機能に応じて、表 3-3 にまとめる。

表 3-3 学校図書館担当職員(学校司書)に求められる役割・職務

読書センター機能	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館が読書活動の拠点となる環境整備 ・読書活動の推進、読む力の育成のための取組を司書教諭と協力して実施
学習センター機能	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭や教員と相談して、授業のねらいに沿った資料の整備 ・ティーム・ティーチングの一員として、学校図書館を活用した授業において、児童生徒に指導的に関わりながら学習を支援
情報センター機能	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料を活用して児童生徒や教員の情報ニーズに対応 ・円滑かつ効果的な情報活用能力育成のため、必要な教材・機材や授業構成等について教員と連携

(出典 これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について(報告)¹⁴より抜粋して作成)

さらに、これらの役割・職務をその性格に応じ、「間接的支援」に関する職務、「直接的支援」に関する職務、「教育指導への支援」に関する職務に分けて表3-4に示す。

表3-4 学校図書館担当職員の職務

「間接的支援」に関する職務	図書館資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の選定、収集、廃棄 ・図書館資料の発注、受入、分類、登録、装備、配架等 ・図書館資料の展示 ・学級文庫等における資料管理
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内・利用案内・書架案内の設置 ・環境整備、保守・点検 ・情報機器の整備・管理 ・学校図書館管理システム等の維持管理
	学校図書館の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の学校図書館、公共図書館等との連携 ・広報・渉外活動 ・学校図書館の運営に関する業務 ・予算編成・執行業務 ・利用実態調査、集計・評価
「直接的支援」に関する職務	館内閲覧、館外貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・利用案内、図書館資料の提供
	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館利用の指導・ガイダンス(オリエンテーション等)
	情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス・調べもの相談、フロアワーク ・情報検索、情報の収集・記録・編集のアドバイス
	読書推進活動	<ul style="list-style-type: none"> ・読書推進活動の企画・実施 ・図書館資料の案内・紹介
「教育指導への支援」に関する職務	教科等の指導に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいに沿った図書館資料の紹介・準備・提供 ・学校図書館を活用した授業を行う司書教諭や教員との打合せ ・学校図書館を活用した授業への参加 ・学校図書館の活用事例に関する教員への情報提供 ・学校図書館を活用した授業における教材や児童生徒の成果物の保存・データベース化・展示
	特別活動の指導に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動・読書クラブ等に対する助言 ・文化祭や修学旅行等、学校行事に関わる資料の展示・提供
	情報活用能力の育成に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の検索方法やデータベースの利用方法についての指導に関する支援 ・調べ学習に関する支援

(出典 これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について(報告)¹⁵より抜粋して作成)

この中で、学校図書館担当職員に求められる最も基本的な役割は、学校図書館の「運営・管理」に関する役割と児童生徒に対する「教育」に関する役割の2つに整理される。そして、この2つの役割に基づき、学校図書館担当職員に求められる資質を表3-5に整理する。

表 3-5 学校図書館担当職員にもとめられる資質能力

「管理・運営」に関する職務に携わるための知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学校図書館の意義に関すること ・情報や資料の種類や性質に関すること ・図書館資料の選択・組織化及びコレクション形成・管理に関すること ・情報機器やネットワーク、情報検索に関すること ・学校図書館の施設・設備の管理に関すること ・著作権や個人情報等の関連法令に関すること
「教育」に関する活動に携わるための知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達に関すること ・学校教育の意義や目標・学校経営方針に関すること ・学習指導要領に基づく各教科等における教育内容等に関すること ・学校図書館を活用した授業における学習活動への支援に関すること ・発達の段階に応じた読書指導の方法に関すること ・校務や学校における諸活動に関すること

(出典 これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について(報告)¹⁶より抜粋して作成)

表3-3、表3-4からわかるように、学校図書館担当者の役割や職務は多岐にわたり、それらを果たすためには、表3-5にあるように様々な資質能力を身に付けなければならない。そして、これらの能力を身に付けた学校司書が、学校図書館に配置され、司書教諭と連携をとりながら学校図書館を運営していくことが必要である。さらに、変化していく時代の要請にあわせて、学校司書が研修を重ねていくことができるように、情報交換や研修をする機会が随時提供されることが望まれる。

3.3 学校図書館のキャリア教育への支援

学校の教育課程の展開に寄与するという学校図書館の目的は、教科教育だけではなく、キャリア教育に関しても同様である。さらに、生涯にわたる学習の基盤形成につながる「生きる力」の育成を担うという学校図書館の役割からみても、キャリア教育への支援は大きな意味を持つものである。学校図書館は、学校の特色や児童生徒、教員の情報ニーズに対応し、幅広い分野の資料を収集・提供し、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」でもある。

キャリア教育は、ひとつの教科や活動に特化した教育ではない。児童生徒が、将来、自立した一社会人として生きていくために必要な能力や態度・意欲を段階的に発達させるこ

とを目指す、児童生徒の主体的な学びである。そしてその学びは、探究型学習に通じるものがある。特に、第2章 2.2 キャリア教育で育成される能力 で言及した、キャリア教育で重要視されている「基礎的・汎用的能力」の「課題対応能力 情報の理解・選択・処理等」に関して、様々な資料を提供する「情報センター」としての学校図書館の役割は大きいと考えられる。2つの先行研究^{17,18}から、学校図書館の活用によるキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」における教育的効果や、探究型学習における学校図書館の活用による学習の質的向上への効果は明らかにされている。

これらのことより学校図書館は、「情報センター」として機能することで、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」の育成において、効果的な支援をすることができると考えられる。

3.4 まとめ

学校図書館は、その設置の目的から教育課程の展開に寄与するものであり、キャリア教育においても同様である。学校図書館は、学校の中で、特定教科にとらわれず中立した立場で学びの支援ができる場所である。生徒の幅広い知的欲求に対応できる学校図書館は、キャリア教育への効果的な支援ができると考えられる。特に、キャリア教育で育成する力として重要視されている「基礎的・汎用的能力」の育成においては、生徒や教員の情報ニーズに対応しながら、情報の収集・選択・活用能力を育成する学校図書館の「情報センター」機能として担う役割が大きい。

学校図書館が、学校教育への効果的な支援を行うには、学校図書館担当者である司書教諭と学校司書が、それぞれの職務を果たしながら協働して支援を行う必要がある。しかし、司書教諭の発令状況や、学校司書の配置状況は充分ではないのが現状である。また、学校図書館担当者としての学校司書は、採用する学校や自治体により、その資格や能力は一定ではない。学校司書に求められる役割や、それを果たすために必要な資質・能力は多岐にわたり、さらに近年では、従来の「直接的支援」「間接的支援」に加え、「教育指導への支援」も求められている。そのため、学校司書の資質・能力を均一に向上させるために、「学校司書のモデルカリキュラム」が文部科学省の報告で示された。さらに、学校司書の配置を推し進めるために、第5次「学校図書館図書整備等5か年計画」では、学校司書の配置についても地方財政措置として予算が計上されるなどの方策がとられている。

これらのことから、学校図書館は、キャリア教育において、生徒のニーズや社会の変化に対応した資料を提供するという支援ができると考える。さらに、学校図書館担当者の配置等の条件が整えば、学校図書館担当者による資料の調べ方の指導など教育指導への支援も可能となる。学校図書館のキャリア教育への支援は、学校図書館が「情報センター」として機能し、学校図書館担当者が十分な資質・能力を身に付けた上で「教育指導への支援」に関する職務にも携わることで実践できると考えられる。

-
- 1 文部科学省. これからの学校図書館の整備・充実について（報告）. 2016-10.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/10/20/1378460_02_2.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 2 前掲 1
 - 3 前掲 1
 - 4 前掲 1
 - 5 文部科学省. 小学校学習指導要領. 2017-03.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 6 文部科学省. 中学校学習指導要領. 2017-03.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 7 前掲 1
 - 8 前掲 1
 - 9 前掲 1
 - 10 文部科学省. 平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について. 2016-10-13.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/_icsFiles/afieldfile/2016/10/13/1378073_01.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 11 前掲 10
 - 12 文部科学省. 学校図書館を、もっと身近で、使いやすく（リーフレット）. 2017.
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/tosyokan/02sisyokyouyutogakkkousisyo/3gakkou.pdf>, (参照 2018-01-08).
 - 13 文部科学省. これからの学校図書館担当職員に求められている役割・職務及びその資質能力の向上方策等について（報告）. 2014-3.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/04/01/1346119_2.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 14 前掲 13
 - 15 前掲 13
 - 16 前掲 13
 - 17 二俣潤也. キャリア教育における学校図書館の活用:聖パウロ学園高等学校の実践から. 学校図書館研究. 2012, vol4, p.125-131.
 - 18 浅野真紀子. 平久江祐司. 探求的な学習における学校図書館の支援の在り方. 図書館情報メディア研究. 2016, vol.14, no.1, p.1-20.

第4章 高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題

本章では、高等学校図書館におけるキャリア教育への支援の現状と課題を明らかにするために、学校図書館担当者への質問紙調査の結果を述べる。

4.1 質問紙調査の概要

4.1.1 質問紙調査の目的

調査の目的は、高等学校図書館におけるキャリア教育への支援の現状と課題を明らかにするためである。

4.1.2 質問紙調査の方法

筆者が作成した質問紙を、2017年9月25日に対象校に発送し、2017年10月31日までに回収した。(質問紙は付録として添付)

返送された回答を集計・分析するにあたり、調査校の学校名や回答者の氏名は、個人情報保護のため明記しない。さらに、学校名は必要に応じ、アルファベットで置き換える。

4.1.3 質問紙調査の対象

質問紙調査の対象は、東京都内の全日制私立高等学校、全228校の司書教諭、学校司書など学校図書館担当者とした。

対象校を東京都内私立高等学校にした理由は、高等学校におけるキャリア教育の実施は喫緊の課題であることに加え、東京都内には私立高等学校が多いこと、また私立高等学校では学校間の格差はあれどもキャリア教育における先進的な取り組みをしている学校が少なからずあると考えられることが理由である。さらに、公立高等学校の場合は、学校が設置されている自治体の施策により学校図書館経営のバラツキが大きいことも、私立高等学校に絞った理由のひとつである。

学校図書館のキャリア教育への支援に関する調査事例がこれまでないこともあり、今後の研究への端緒として今回の調査対象を決定した。

4.2 質問紙調査結果の分析

質問紙に対する回答は、質問紙を郵送した228校のうち71校からあった。回答率は31.1%である。

4.2.1 回答者の学校図書館での立場

[質問 1] 回答者の学校図書館での立場を教えてください。回答は該当する番号に○をつけてください。

[選択肢] ①専任司書教諭 ②兼任司書教諭 ③常勤学校司書 ④非常勤学校司書
⑤その他（ ）

[回答結果]

表 4-1 回答者の立場 (N =71)

	人数	回答比率
専任司書教諭	34	47.9%
常勤学校司書	22	31.0%
兼任司書教諭	7	9.9%
非常勤学校司書	5	7.0%
その他	3	4.2%

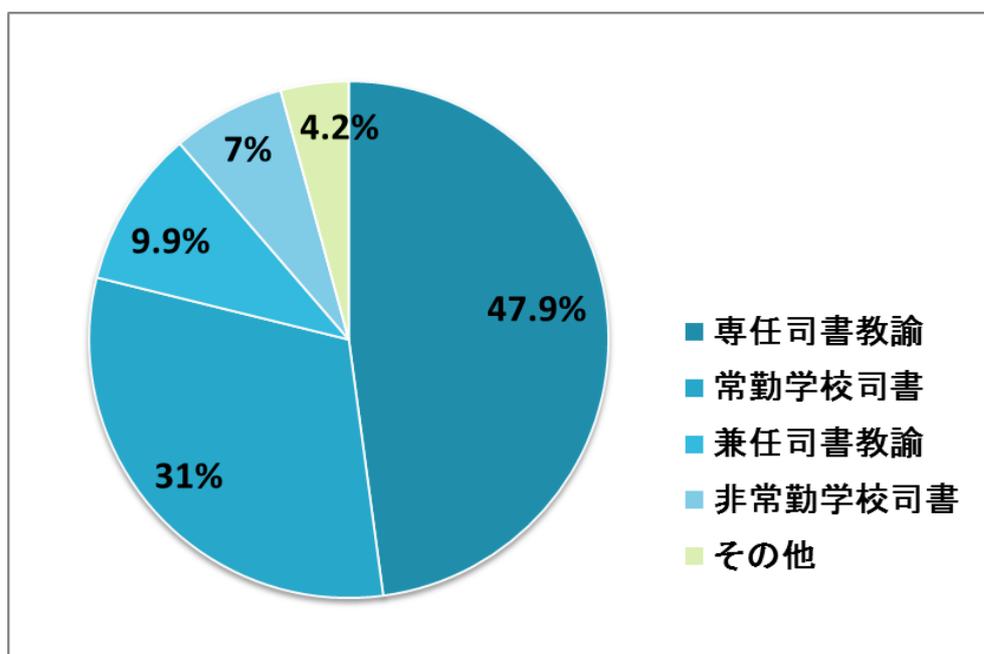


図 4-1 回答者の立場

表 4-1、図 4-1 からわかるように、回答者の 47.9%の 34 名が専任司書教諭、31%の 22 名が常勤学校司書だった。続いて兼任司書教諭が 9.9%、非常勤学校司書が 7%となっている。その他としては、非常勤司書教諭、図書主任代行などの回答があった。

このことから、回答があった東京都内私立高等学校の約半数の学校では、学校図書館担当者として専任司書教諭が勤務していることがわかる。さらに、兼任も含めた司書教諭の割合は、57.8%となる。回答のあった学校のうち 95.8%で、司書教諭または学校司書の学校図書館専門職員が配置されていることがわかる。

4.2.2 キャリア教育の実施状況

[質問 2] 貴校では、キャリア教育を行っていますか？

[選択肢] ①行っている ②行っていない ③わからない

[回答結果]

表 4-2 キャリア教育実施状況 (N =71)

キャリア教育	学校数	回答比率
行っている	63	88.7%
行っていない	5	7.0%
わからない	3	4.2%

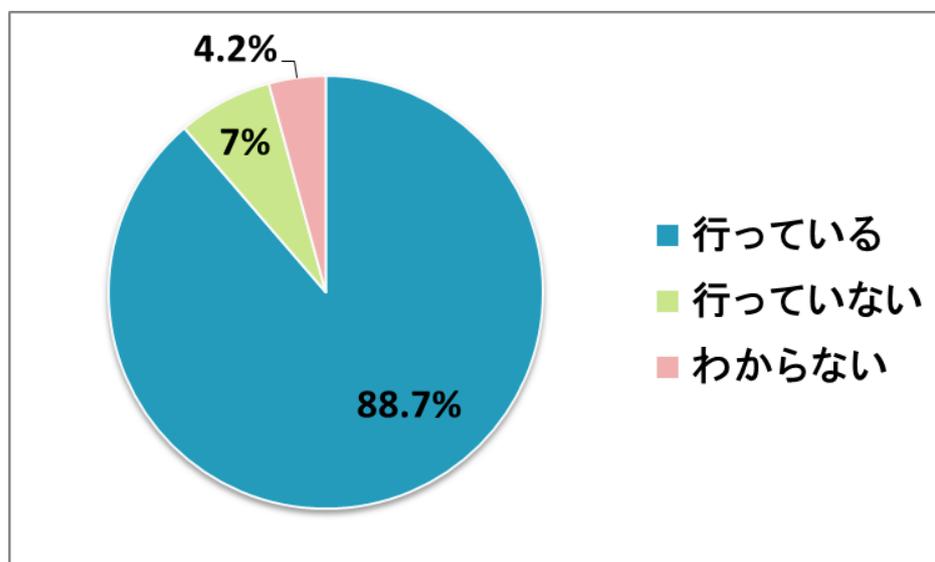


図 4-2 キャリア教育の実施状況

表 4-2、図 4-2 からわかるように、回答のあった高等学校のうち、88.7%の 63 校でキャリア教育が行われていた。

しかし、この結果は、質問紙の回収状況からみて、キャリア教育を行っている学校だから質問紙調査へ回答した、逆にキャリア教育は行っていないので回答しなかったという可能性があることも否めない。

4.2.3 キャリア教育の具体的な内容

[質問 2-2] キャリア教育を行っている場合は、具体的にはどのようなことを行っていますか？（複数回答可）

- [選択肢] ①仕事調べ ②面接指導 ③小論文指導 ④講演会
 ⑤インターンシップ（職場体験） ⑥各種資格取得支援
 ⑦その他（ ）

[回答結果]

表 4-3 キャリア教育の内容 (N =63)

キャリア教育の内容	学校数	回答比率
仕事調べ	44	69.8%
面接指導	29	46.0%
小論文指導	41	65.1%
講演会	53	84.1%
インターンシップ	21	33.3%
各種資格取得支援	30	47.6%
その他	12	19.0%

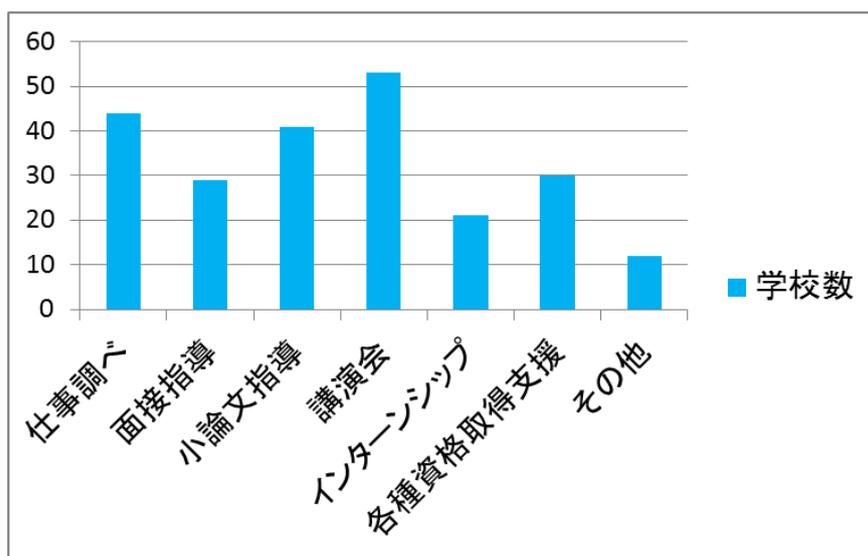


図 4-3 キャリア教育の内容

表 4-3、図 4-3 からわかるように、実施されているキャリア教育の内容として多かったものは、講演会、仕事調べ、小論文指導である。講演会はキャリア教育を実施していると回答があった学校の 84.1%の 53 校、仕事調べは 69.8%の 44 校、小論文指導は 65.1%の 41 校の学校で、それぞれ行われている。その他としては、進学に関わるものと職業に関わるもの大きく分けると、進学に関わるものとしては、進学ガイダンス、オープンキャンパス参加、大学からの出張講義などがあげられている。職業に関わるものとしては、職場ガイダンス、職場見学、企業とコラボした活動、起業体験、各種施設訪問、職業インタビューなどがあった。さらに、その他として、キャリアデザイン授業（自分を深める学習）、キャリアガイダンス、在卒懇談会（在校生と卒業生が懇談する会）、適性テスト、地域イベントへの参加など、各学校によって多様な取り組みが行われていることがわかった。

4.2.4 学校図書館のキャリア教育への支援の実施状況

[質問 3] 学校図書館はキャリア教育に関する支援を行っていますか？

[選択肢] ①行っている（行っている場合は 質問 4 へ）

②行っていない

行っていない場合は、その理由を教えてください

()

[回答結果]

表 4-4 学校図書館のキャリア教育への支援 (N =69)

キャリア教育支援	学校数	回答比率
行っている	56	81.2%
行っていない	13	18.8%

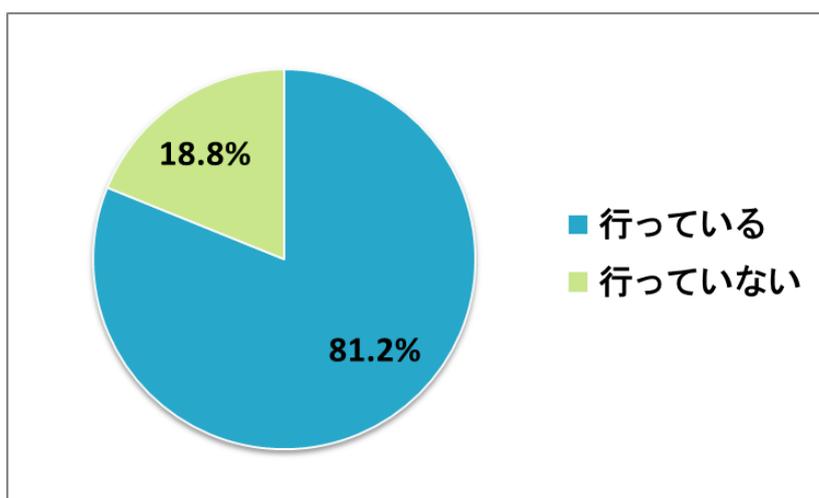


図 4-4 学校図書館のキャリア教育への支援

表 4-4、図 4-4 からわかるように、回答があった学校のうち、81.2%の学校で、学校図書館のキャリアへの支援が行われていた。[質問 2] のキャリア教育の実施状況の回答、キャリア教育を行っている学校 63 校に対しては、88.9%の学校図書館でキャリア教育支援を行っていることになる。ただし、この質問紙調査の回収状況からみて、学校でキャリア教育を行っていない、または学校図書館がキャリア教育への支援を行っていない学校図書館担当者からは回答をもらえなかった可能性もあることを考慮にいれたい。

一方、回答があった学校のうち、18.8%の学校図書館は、キャリア教育への支援を行っていないことが明らかになった。キャリア教育への支援を行っていない理由として、13 校のうち 4 校から「キャリア教育は進路指導部が行っているため、学校図書館は関与していない」という回答があった。その中には、「キャリア教育は進路指導部の主導で行うが、外部委託のものが多いため」という回答もあり、キャリア教育のアウトソーシング化の一面が見受けられる。また、「理由があって行っていないわけではなく、具体的にキャリア教育の支援を指示されていない」「担任から要望がない」という回答もあり、学校図書館が学校または教員からの指示待ちで動いていることがわかる。これらの学校図書館が他の教科への支援をどの程度行っているのか、行っていないのかは、今回の調査では調べられなかったが、学校または教員からの指示と学校図書館の授業支援の関係性については、今後解明する課題として残った。

4.2.5 学校図書館のキャリア教育への支援の内容

[質問 4] 学校図書館のキャリア教育支援の内容について教えてください

(1) キャリア教育に関する資料の所蔵状況

[質問 4-1] 学校図書館でキャリア教育に関する資料はどのくらい収集していますか？

[回答欄] 図書 約 () 冊

雑誌 約 () 冊

新聞 約 () 部

その他の資料 どういったものをどのくらい収集しているか教えてください

()

資料の収集に関して特筆する点があったら教えてください

()

[回答結果]

表 4-5 キャリア教育関連図書 所蔵冊数の分布 (N =49)

冊数	学校数
1	3
100	7
200	16
300	11
400	3
500	7
600	
700	
800	1
900	
1000	
1100	
1200	
1300	
1500	1

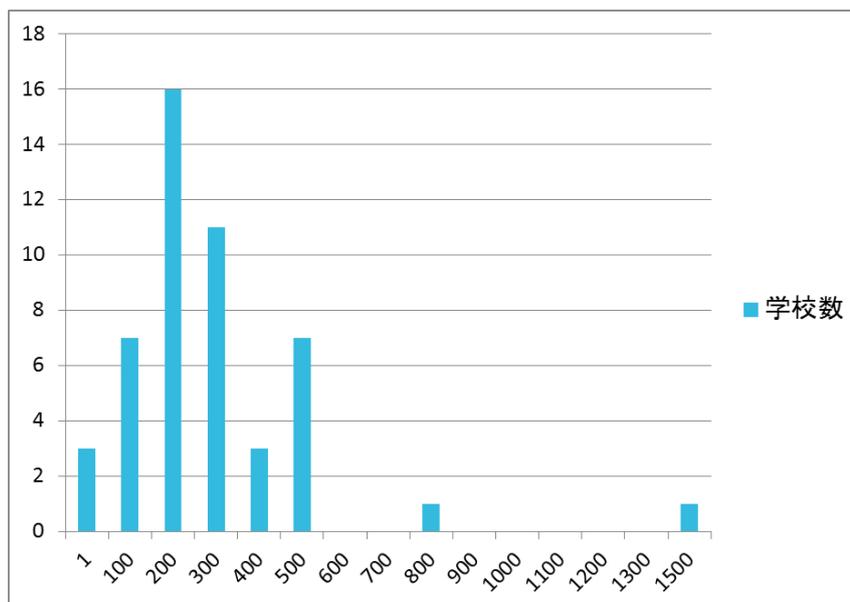


図 4-5 キャリア教育関連図書 所蔵冊数の分布

表 4-5、図 4-5 からわかるように、キャリア教育関連図書の所蔵数は、200 冊から 300 冊が大半を占めている。しかし、回答の記述の中には「キャリア教育の目的で購入していない本でも、その用途で使われることも多い」「すべての資料がキャリア教育につながるので冊数を出すことは難しい」という意見があり、実際には、キャリア教育の目的で購入された冊数以上に多くの図書が、キャリア教育の資料として利用されていると考えられる。

分類すると、「職業や働き方に関する資料」「進学に関する資料」「小論文の書き方や面接に関する資料」「英検や数検などの各種検定や資格取得に関する資料」「留学に関する資料」などに大別できる。また、社会的に著名な卒業生の著作や活動状況がわかる資料を意識して収集している学校もあった。

具体的な図書として、ペリかん社の『なるには BOOKS』のシリーズの購入をあげた学校が 8 校あり、全点購入しているという学校も複数校あった。『なるには BOOKS』は、発売元のペリかん社のホームページによると「少年少女の夢を応援することを目的に刊行を開始し、現在 150 点刊行。現代社会のほとんどの職種をカバーする最大の職業ガイドシリーズ。各巻ともその分野を専門とする執筆陣を起用。ドキュメント・仕事の世界・なるには

コースからなる構成で、その仕事の魅力・現実から、なり方まで幅広く紹介。今後も多彩な職業を続々出版予定」¹とある。このシリーズの良い点は、時代の変化や職業の変化に応じて、適宜改訂版が出版されることである。例えば、シリーズ第 19 巻『司書になるには』²は、2002 年に『司書・司書教諭になるには』として出版された本の、全面改訂版として 2016 年に出版されたものである。この改訂の理由を本書では 3 点あげている。「まず、第 1 の理由として 2015 年に学校図書館法が改正され、学校司書が法制化されたこと。第 2 の理由として、図書館での非正規雇用が増大したこと。第 3 の理由として、情報通信に関する技術の進化により、図書館を取り巻く状況が大きく変化したこと。」³である。このように、扱っている職業の種類が多い上に、常に新しい情報が記載されており、さらにそれは夢物語ではなく、その職業の負の一面も正確に伝えているため、学校図書館ではキャリア教育関連図書のバイブルのようになっている。

さらに、主に小論文対策として新書の充実を図っている学校が多く、高等学校図書館における新書の扱いの重要性がわかった。

雑誌の冊数や新聞の部数に関しては、回答数が少なく数値の分析をすることができなかった。しかし、新聞は図書と同様にキャリア教育目的では購入していないが、その目的で使われることが多いことが、特筆する点として調査結果から明らかになった。

その他の資料として収集しているものは、DVD 資料（『NHK プロフェッショナル仕事の流儀』や『平成若者仕事図鑑』など）や、新聞記事データベース等、オンラインデータベースの利用も複数校でみられた。

就職関連図書、進学関連図書を一緒にキャリア教育図書としている学校がある一方、卒業後の進路がほぼ進学のため大学進学の参考書・入試過去問等を中心に集めている学校など、その学校の教育の特色により資料収集の方針の違いがみられた。大学のパンフレットや、無料で配布される進学・進路情報誌を収集している学校もあった。

資料の収集に関して留意する点としては、情報の新しさを指摘している学校が多く、キャリア教育に関しては特に、時代に合った旬の情報を入手することが大切であるといえる。具体的にキャリア教育関連の図書や雑誌の廃棄年限を定めている学校もあり、適宜入れ替えを行っていることがわかった。さらに、生徒の幅広い要求に対応できるように、どのジャンルも偏りなく収集するようにしているという学校も多くみられた。

(2) キャリア教育関連資料の生徒の利用状況

[質問 4-2] キャリア教育関連図書の子徒の利用状況を教えてください

[選択肢] ①よく使われている ②時々使われている ③ほとんど使われていない

[回答結果]

表 4-6 資料の子徒の利用状況 (N =60)

資料の子徒の利用状況	学校数	回答比率
よく使われている	11	18.3%
時々使われている	45	75.0%
ほとんど使われていない	4	6.7%

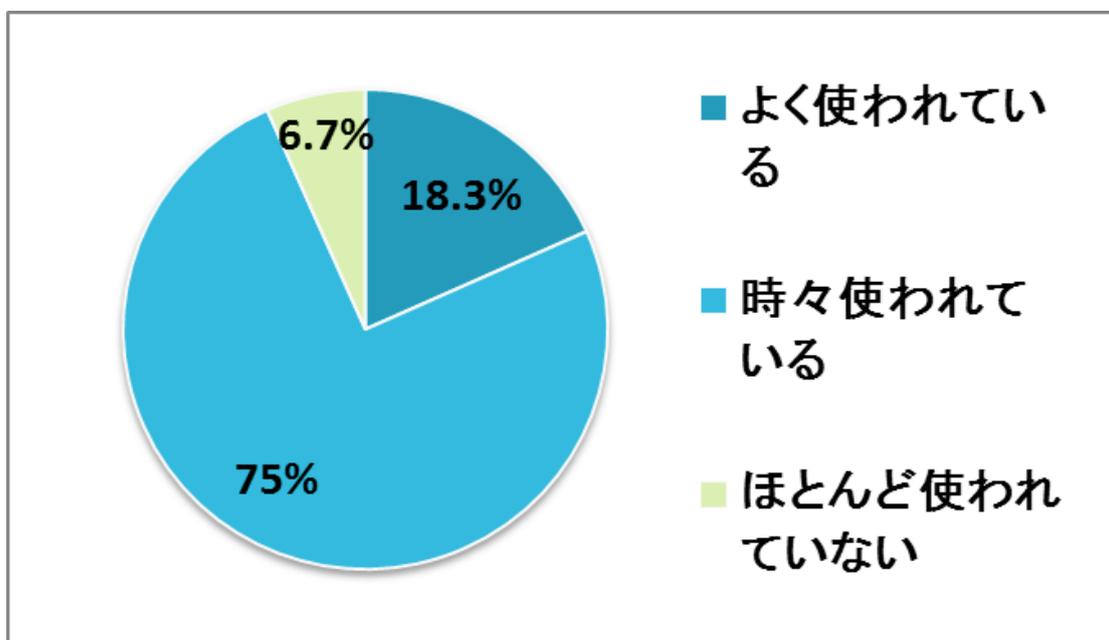


図 4-6 資料の子徒の利用状況

表 4-6、図 4-6 からわかるように、キャリア教育関連図書は、よく使われている、時々使われているを合わせて 93.3%であり、生徒は学校図書館でキャリア教育関連資料を利用していることがわかる。また、高校 3 年生の利用が多いという声もきかれた。これは、進路選択や入試等を直前にして、必要に迫られての利用が増えるためと考えられる。

(3) キャリア教育関連図書の展示コーナーの設置状況

[質問 4-3] キャリア教育関連資料の展示コーナー等を設置していますか？

[選択肢] ①設置している ②設置していない ③これから設置したい

[回答結果]

表 4-7 展示コーナーの設置状況 (N =62)

展示コーナーの設置	学校数	回答比率
設置している	42	67.7%
設置していない	16	25.8%
これから設置したい	4	6.5%

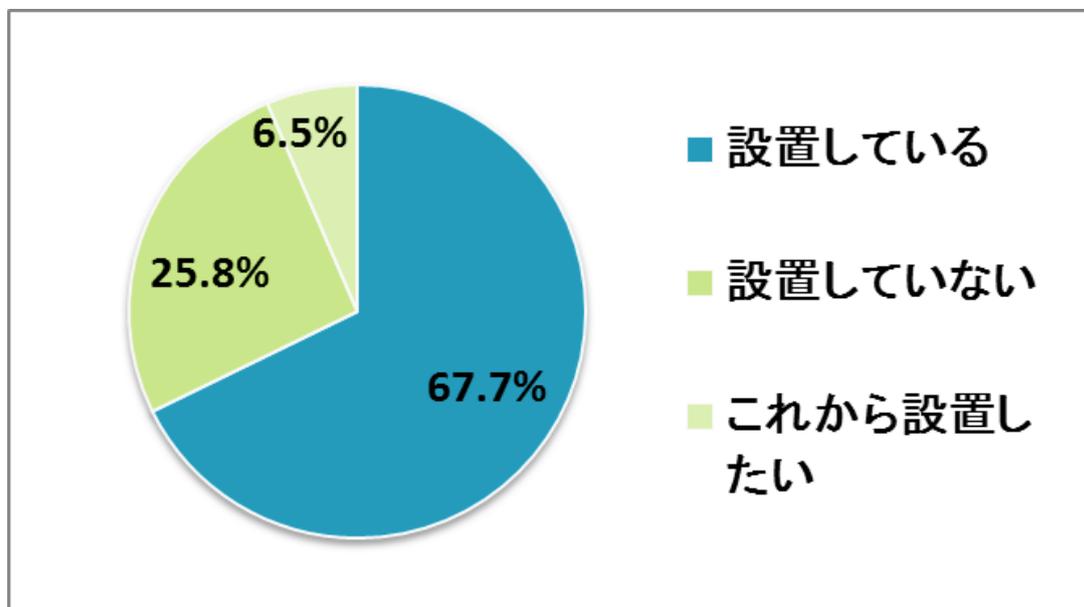


図 4-7 展示コーナーの設置状況

表 4-7、図 4-7 からわかるように、67.7%の学校図書館で、キャリア教育関連図書の展示コーナーを設置していることがわかる。

(4) 関連図書リスト、パスファインダー等のツール類作成状況

[質問 4-4] キャリア教育関連資料のリスト、パスファインダー等のツール類を作成していますか？

[選択肢] ①作成している ②作成していない ③これから作成したい

[回答結果]

表 4-8 ツール類作成状況 (N =62)

ツール類作成	学校数	回答比率
作成している	14	22.6%
作成していない	37	59.7%
これから作成したい	11	17.7%

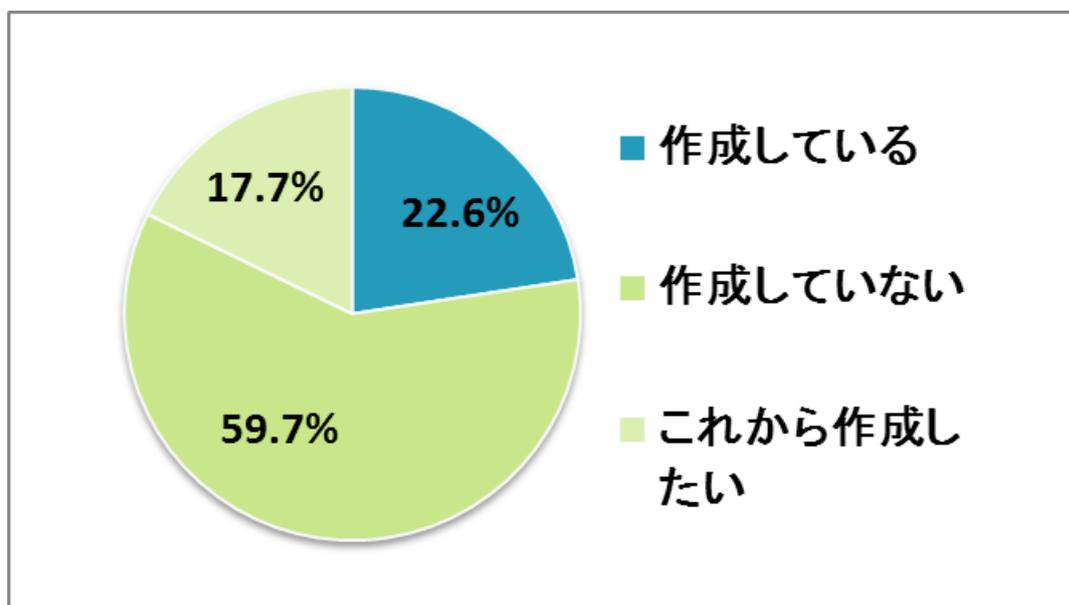


図 4-8 ツール類作成状況

表 4-8、図 4-8 からわかるように、関連図書リストやパスファインダー等のツールを作成している学校図書館は、22.6%となっている。

(3)の展示コーナーの設置状況もふまえると、キャリア教育関連資料の展示コーナー等を作成している学校図書館は多いが、ツール類までは作成していない学校がほとんどであることがわかる。

(5) キャリア教育担当教員との連携した活動や授業の実施状況

[質問 4-5] キャリア教育担当教員と連携した活動や授業等を行っていますか？

[選択肢] ①行っている ②行っていない ③これから行いたい

[回答結果]

表 4-9 連携した活動の実施状況 (N =61)

連携した活動の実施	学校数	回答比率
行っている	10	16.4%
行っていない	40	65.6%
これから行いたい	11	18.0%

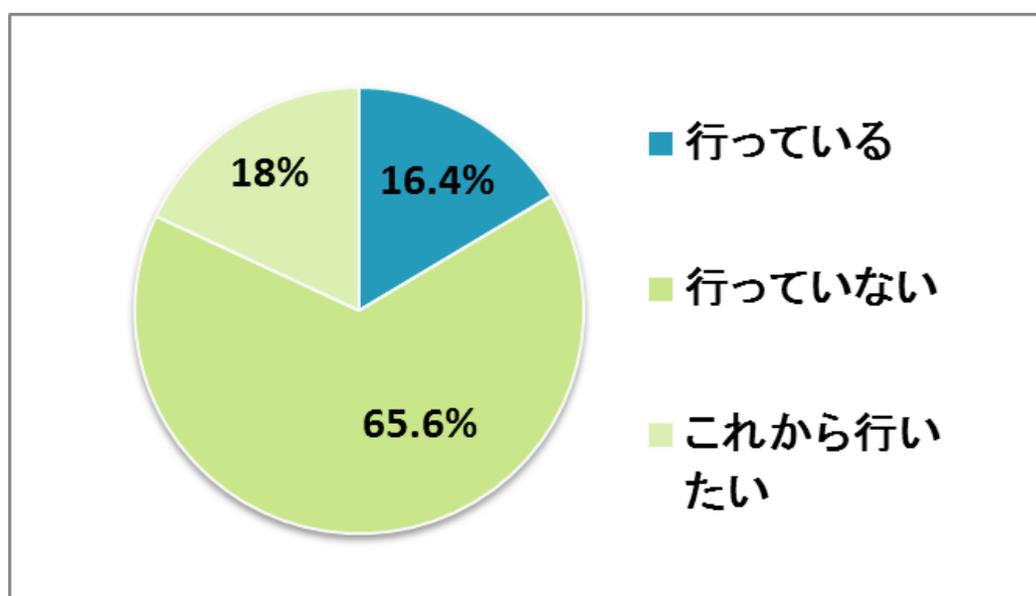


図 4-9 連携した活動の実施状況

表 4-9、図 4-9 からわかるように、キャリア教育担当教員と連携した活動や授業を行っている学校図書館は、16.4%となっており、ほとんどの学校図書館で連携した活動や授業は行われていないことがわかる。

[質問 3] 表 4-4、図 4-4 にあるように、81.2%の学校図書館でキャリア教育への支援が行われていることが明らかになったが、キャリア教育と連携した活動や授業を行っている学校図書館は少ないことがわかる。

(6) キャリア教育担当教員と連携した活動を行っている場合の具体的な内容

[質問 4-6] キャリア教育担当教員と連携した活動を行っている場合、具体的にどのようなことをしているのか教えてください

[回答結果]

回答結果から、「資料提供」「調べ方の指導」「場の提供」の大きく分けて3つの連携がみられた。

まず、「資料提供」による連携としては、キャリア教育担当教員から要望があった資料等、キャリア教育に関する資料の購入と別置、進路や小論文指導・対策のための資料リストの作成と提供等が行われている。

「調べ方の指導」による連携としては、授業での職業調べ等の調べ学習の支援や、資料の探し方の支援や実習等が行われている。職業についてのレポート作成のためのガイダンスを行っている学校図書館もあった。

「場の提供」による連携としては、学年で行ったキャリア教育のインターンシップの様子を学校図書館内に展示している学校や、学校図書館内で講演会や講義等のキャリアガイダンスを行っている学校があった。

(7) 学校図書館以外でのキャリア教育に関する資料の配置状況

[質問 4-7] 学校図書館以外にキャリア教育に関する資料を配置しているか教えてください

[選択肢] ①配置している ②配置していない

[回答結果]

表 4-10 図書館以外での資料の配置 (N =58)

図書館以外での資料の配置	学校数	回答比率
配置している	35	60.3%
配置していない	23	39.7%

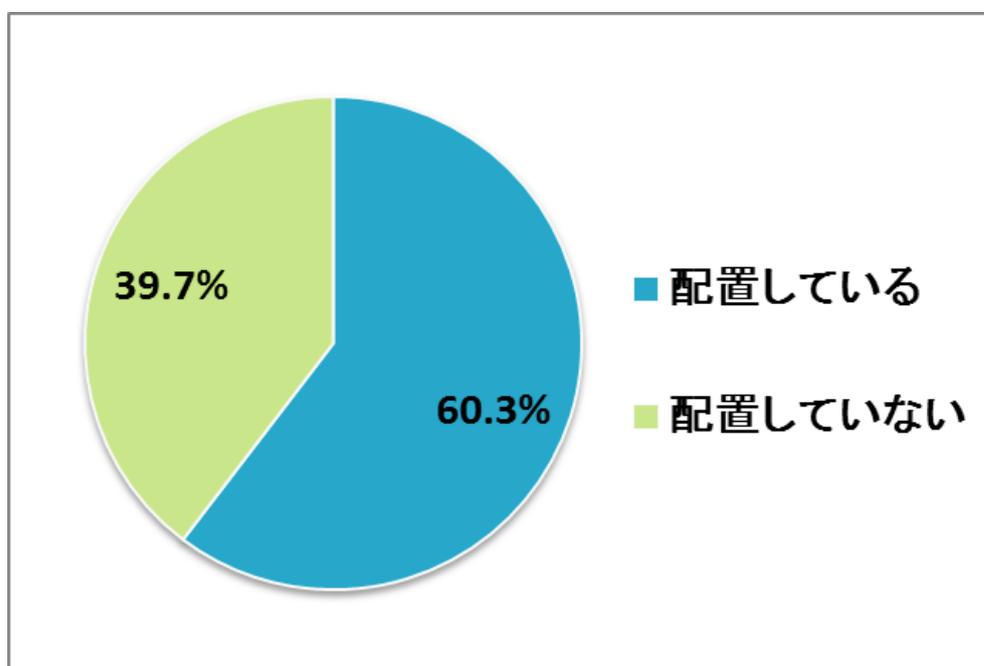


図 4-10 図書館以外での資料の配置

表 4-10、図 4-10 からわかるように、60.3%の 35 校が、学校図書館以外にもキャリア教育に関する資料を配置していることがわかる。

[質問 4-8] 配置している場合、どこに配置していますか。また資料をどのように管理しているか教えてください

[回答結果]

表 4-11 図書館以外の配置場所 (N =35)

配置場所	学校数
進路指導室	30
HR教室	7
その他	4

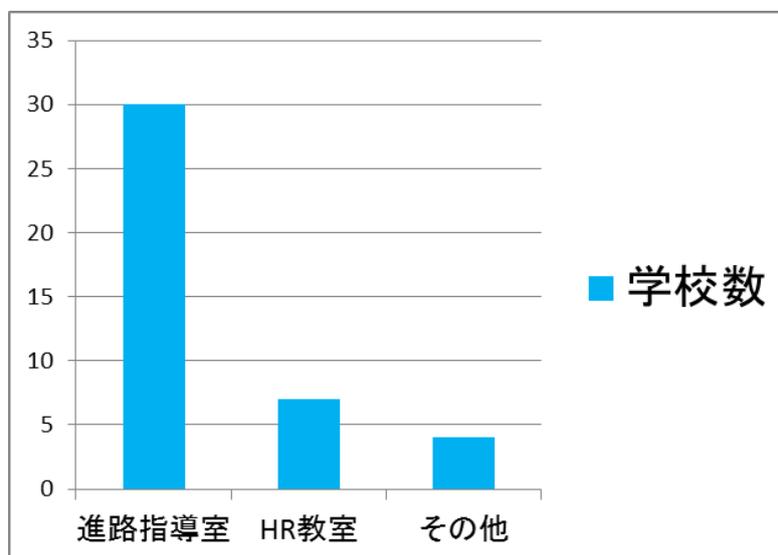


図 4-11 図書館以外の配置場所

表 4-11、図 4-11 からわかるように、具体的な配置場所は、進路指導室に配置している学校が 30 校、ホームルーム教室が 7 校となっている。進路指導室に配置している資料は、すべての学校で進路指導部が管理しており、学校図書館は関わっていないことが明らかになった。また、ホームルーム教室での管理は、学年または担任が行っており、進路指導室の場合と同様に学校図書館は関与していない。

進学に関する資料は、大学案内や学部案内等の進路選択に関する資料と、参考書や入試過去問等の問題集に大別される。学校図書館に参考書や入試過去問等の問題集（いわゆる赤本等）を置いているところと置いていないところがあることが「質問 4-1」の回答結果から明らかになっている。しかし、その割合までは今回の調査で明らかにすることはできなかった。

この調査では、進学相談ブースをメディアセンター内に設置している学校が 1 校あったのみで、それ以外は、学校図書館と進路指導部が連携している例はみられなかった。同じ資料を学校内で複数個所に置くことの意義や、進路指導部との連携について、検討する必要性もあげられている。

質問紙調査の回答から、進路指導部と連携した活動は行っていないが、学校図書館側で意識的に差別化を図って資料を収集・提供している事例があり、以下に示す。この取り組

みをしてから、まだ 1 年なので効果等はわからないそうだが、学校図書館担当者の意欲的な取り組みとして評価できる例である。

「生徒の現在と将来をつなぐ「かけはしコーナー」を図書室に設置。進路指導室では進学に直結した資料を収集しているのに対し、大学教授が執筆した入門書やアカデミック・スキルズにつながる資料を収集し、進学後の生活もフォローできるよう努めている。また自分を深める学習に関連し、哲学関係の本も積極的に受入している。」

前出の文部科学省の学校基礎調査で示されたように「高等学校卒業者の大学・短大進学率（現役）は 54.8%、専門学校を含めた高等教育機関進学率は 71%」⁴であり、キャリア教育支援の際、進学に関する資料の扱いは大切なポイントとなる。学校図書館がどこまで資料を収集・提供するの、進路指導部との関わりをどのようにしたらよいのか等は、今後の課題である。

(8) キャリア教育支援を行ったことによる効果やよかった点

[質問 4-9] キャリア教育支援を行ったことによる効果やよかった点があったら教えてください

[回答結果]

回答結果から、「生徒にとってよかった点」と、「学校図書館にとってよかった点」に分けてまとめる。

まず、「生徒にとってよかった点」としては、早い段階で職業や進路を意識することにより生徒の意識や意欲の向上がみられ、授業への集中度、特に自分が必要な科目・教科への集中度が増している様子が見受けられる。多様な資料が、生徒の進路を選択する上での一助となっていることもわかる。また、生徒が自分の進路の志望理由を具体的、かつ明確に書いたり、述べたりすることができるようになっている。中学生や高校 1 年生など低学年の間でも、大学や社会に関する関心度の高まりがみられる。さらに、小説や物語だけではなく、新書やノンフィクションの本を読むようになり、生徒の日常の読書の幅が広がっている。

一方、「学校図書館にとってよかった点」としては、キャリア教育への支援をきっかけに、学校図書館に足を向けてもらう機会が増えたり、学校図書館でオリエンテーション等の利用指導をする時間を作ってもらえるようになったりしている。また、キャリア形成に関する生徒の要望や悩みがわかって、資料購入の参考になったという声もきかれた。さらに、キャリア教育への支援をきっかけに、それぞれの分類記号によって配架されて館内に点在していた職業の本や大学に関する本、留学に関する本などを、まとめて一覧できるように

したところ、利用が増えたという学校もあった。

(9) キャリア教育支援を行う上での問題点や課題

[質問 4-10] キャリア教育支援を行う上での問題点や課題等があったら教えてください

[回答結果]

回答結果から、キャリア教育支援を行う上での問題点や課題は、大きく分けて「資料に関する課題」「生徒の利用指導上の課題」「キャリア教育担当教員等との連携に関する課題」「学校の教育方針等に関する課題」の4つに分類される。

まず、「資料に関する課題」として、キャリア教育関連の資料は特に、情報の新しさ、資料の鮮度が大切で、適宜資料を更新していくことの必要性が明らかになった。また、大学の学部や職業が多岐にわたり、それぞれに対応した資料がないことが複数の学校図書館担当者から問題点としてあげられている。さらに、館内利用者パソコンでのキャリア教育に関するデジタルコンテンツへの閲覧対応をキャリア教育担当教員から求められている学校もあり、今後ますます増えていくことが見込まれるデジタルコンテンツへの対応も考慮に入れていかなければならないといえる。

一方、資料を学校図書館だけではなく、進路指導室等にも配置している場合、どこにどの資料を配置するのか、重複して配置することの意義の検討等がこれからの課題である。

「生徒の利用指導上の課題」としては、生徒の発達段階や意欲、個人差を意識した支援の必要性があげられる。また、生徒の学習が広く浅くにとどまりがちで、深い学びにつながらないという問題点もあげられている。さらに、テーマによってはインターネット情報に頼りがちになる生徒に、情報の正確さや信頼性の意識を伝えることが課題となっている。

「キャリア教育担当教員等との連携に関する課題」としては、キャリア教育担当教員や担任、進路指導部との連携そのものが難しいということ、さらに、その年度の担当分掌の構成員等によって連携が左右されることもあるということがあげられている。キャリア教育と学校図書館の連携を複数年に渡って継続することの難しさがみられる。担当者が変わっても引き継いでいける高等学校3年間に渡る系統だった計画が必要である。

「学校の教育方針等に関する課題」としては、まず、学校図書館担当者が学校の教育方針をきちんと理解することの大切さがあげられている。その上で、その教育方針と担当教員や生徒の要望とのすり合わせが必要である。さらに、教科の内容の増加による授業時間の増加等の学校の教育方針の転換により、キャリア教育にあてる時間の制約が厳しくなるなど、キャリア教育活動の存続自体が危ぶまれるという声もきかれた。

4.2.6 学校図書館担当者の立場によるキャリア教育支援の実施状況

[質問 1] 回答者の立場と、[質問 3] キャリア教育への支援の実施状況、及び[質問 4-5]キャリア教育担当教員との連携した活動や授業の実施状況の回答結果のクロス集計により、学校図書館担当者の立場により支援や連携した活動の実施状況に差がみられるかを確認する。

表 4-12 回答者の立場とキャリア教育支援の実施状況 (N =69)

	行っている	行っていない	実施率
専任司書教諭	29	5	85.3%
兼任司書教諭	7	0	100.0%
常勤学校司書	16	5	76.2%
非常勤学校司書	3	2	60.0%
その他	1	1	50.0%

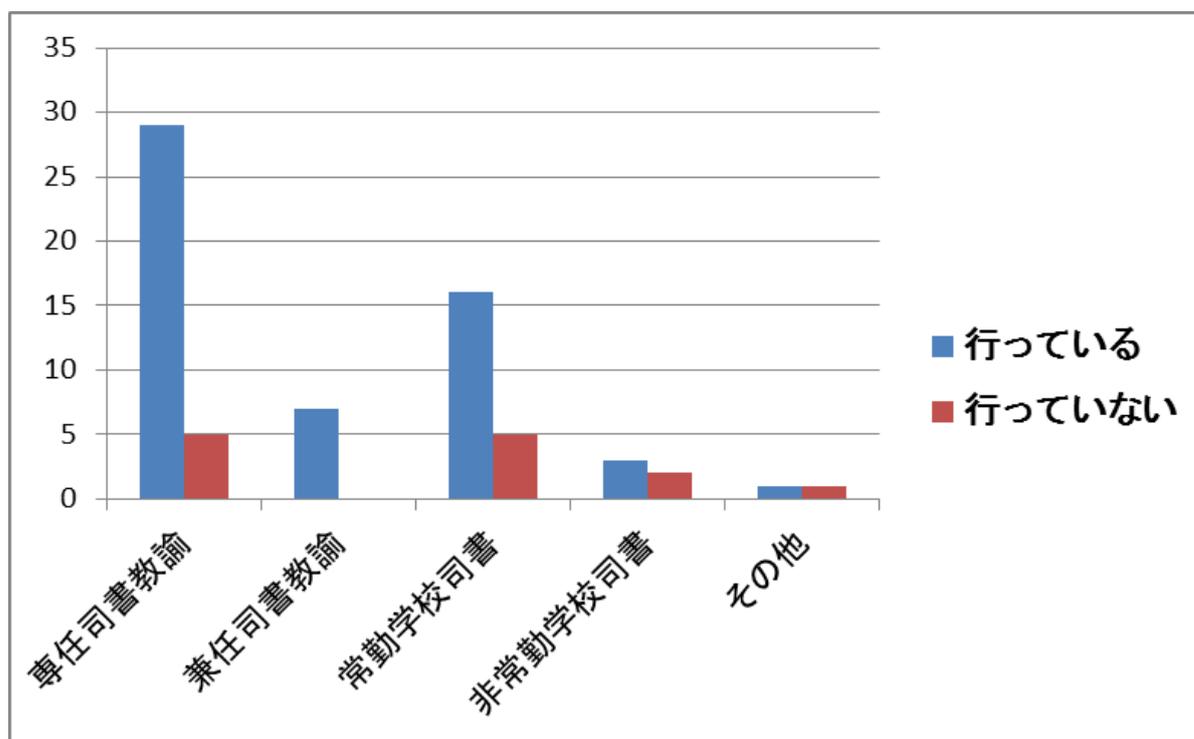


図 4-12 回答者の立場とキャリア教育支援の実施状況

表 4-13 回答者の立場と連携した活動の実施状況 (N =61)

	行っている	行っていない	実施率
専任司書教諭	6	26	18.8%
兼任司書教諭	1	6	14.3%
常勤学校司書	2	15	11.8%
非常勤学校司書	0	4	0.0%
その他	1	0	100.0%

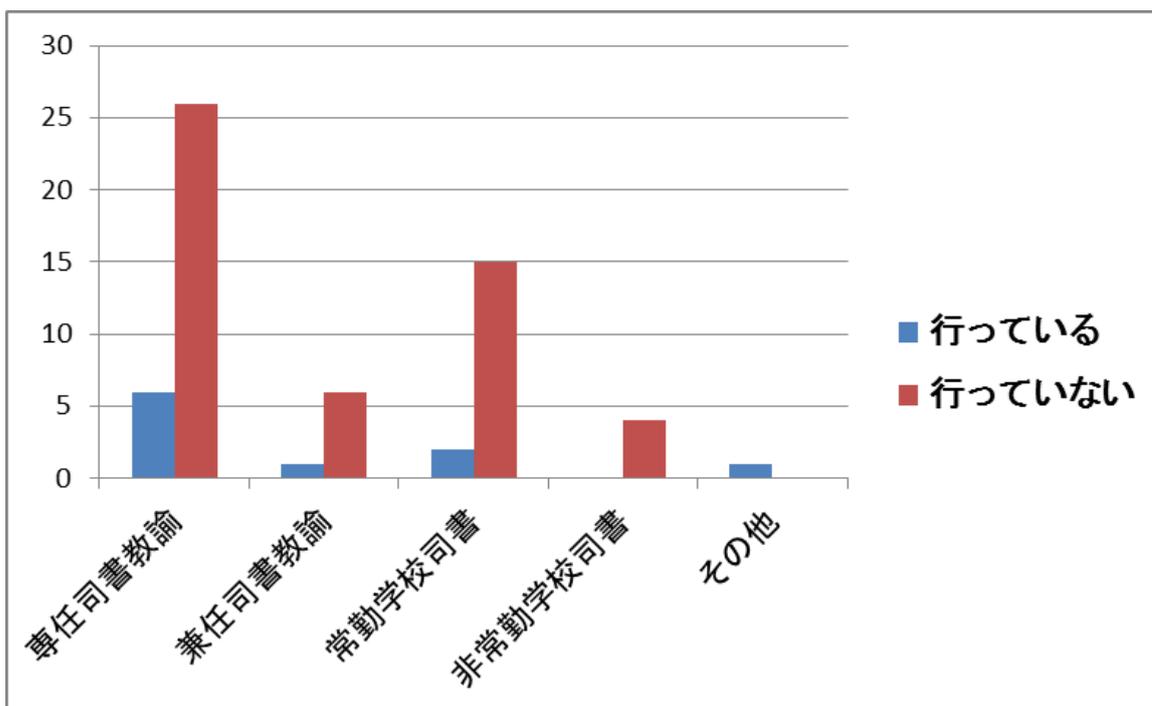


図 4-13 回答者の立場と連携した活動の実施状況

表 4-12、図 4-12 からわかるように、学校図書館担当者が、専任司書教諭・兼任司書教諭の場合、キャリア教育支援を行っていると答えた割合が高くなっている。特に、兼任司書教諭の場合は、回答があった全員がキャリア教育支援を行っていると答えたことがわかった。キャリア教育支援の実施率が高いのは、兼任司書教諭、専任司書教諭、常勤学校司書、非常勤学校司書の順である。この割合は、キャリア教育担当教員をはじめ教員や各分掌とのコミュニケーションの取りやすさに関連しているのではないかと推測される。キャリア教育担当教員との連携した活動は、行っている学校が少ないこともあり、表 4-13、図 4-13 からわかるように、この調査では回答者の立場による実施状況の違いはみられなかった。

キャリア教育をはじめ、学校教育への学校図書館の支援や連携は、学校図書館担当者の立場により左右される可能性があると考えられる。

4.2.7 特徴的な支援をしている学校図書館の事例

質問紙調査から、キャリア教育への特徴的な支援をしていることがわかった学校図書館の事例を分析する。

(1) 事例1 A校

共学の大学附属の中高一貫校である。毎年、卒業生の85～90%が推薦で附属の大学へ進学するため、いわゆる受験勉強にとらわれることなく進路を選択することができる。

回答があった学校図書館担当者は、専任司書教諭である。

学校ホームページの学校図書館紹介によると、学校図書館の概要は以下の通りである。

「学校図書館は三層構造の独立した建物を持ち、約18万冊の蔵書と5,300タイトルの視聴覚資料、図書館専用のパソコンが80台常設され8種のオンラインデータベースが利用可能になっている。同時に3クラスの授業が可能なスペースを有する。生徒と教職員の「調査・研究」に対応できる図書館として、あらゆる分野の図書・資料を収集している。所蔵資料検索システム（OPAC）を教材として位置付け、図書館スタッフが常に書誌データを更新。調べたい言葉（キーワード）を入力することで、求める資料を探し出すことができる。オンラインデータベースとOPACへの入口を図書館ホームページに一元化（ポータルサイト化）。校内ネットワークに接続された全ての生徒・教職員用パソコンから24時間何時でも図書館が提供する情報サービスを手軽に利用することが可能となっている。授業では1人1台の利用環境の下、情報探索に留まらず、課題作成のための文書作成・表計算ソフト、発表用のプレゼンテーションソフトやプリンタ・プロジェクターなども完備。カウンターには、常時専門スタッフを配置して情報探索の道案内も行っている。その結果、学習・情報センターとして各教科の支持を得て、年間約1000時間の授業が館内で展開。昼休みや放課後の利用者も多く、図書館は毎日フル稼働している状態である。」⁵

学校図書館としては類を見ない施設・設備を有し、司書教諭を中核とした学校図書館担当者による学びの支援が行われおり、図書館での授業が日常的に展開していることがわかる。

質問紙調査の結果から以下のことが明らかになっている。

キャリア教育として、仕事調べ、小論文指導、講演会、各種資格取得支援が行われている。学校図書館は、キャリア教育に関する支援を行っており、関連図書の所蔵冊数は288冊、新聞は1紙、その他デジタルコンテンツもある。キャリア教育関連資料は、生徒は時々

利用している。キャリア教育関連資料の展示コーナーを設置しているが、ツール類は作成していない。キャリア教育担当教員と連携した活動として、図書館内で行うキャリアガイダンス（講演会、講義など）が行われている。キャリア教育支援を行ったことによる効果やよかった点は不明である。キャリア教育支援を行う上の課題として、館内利用者用パソコンでのキャリア教育関連資料のデジタルコンテンツの閲覧利用を担当者より求められていることがあげられている。

また、学校図書館以外にも、進路指導室とホームルーム教室にキャリア教育関連資料を配置している。進路指導室の資料は、進路指導部予算で購入し進路指導部が管理している。ホームルーム教室の資料は、学年費で購入し、担任が管理している。

学校図書館を活用した授業が日常的に行われており、キャリア教育担当教員との連携においても、学校図書館の中で講演会や講義などのキャリアガイダンスが行われている。授業だけではなく、キャリアガイダンスの実施といった「場の提供」をしている学校図書館の例は稀である。総合学習センターとして学びの中心になっている学校図書館では、「場の提供」もできるということがわかる事例である。

質問紙調査の[質問 2-2]の結果から、回答があった都内私立高等学校では、キャリア教育として講演会の実施率は 84.1%と一番高い。学校図書館を講演会等の場として提供できれば、学校図書館とキャリア教育との連携した活動の可能性も広がると考えられる。

(2) 事例 2 B校

併設型中高一貫の女子校である。大半の生徒は 4 年制大学へ進学するが、短期大学、専門学校への進学者もいる。

回答があった学校図書館担当者は、専任司書教諭である。

学校ホームページによると、学校図書館の概要は以下の通りである。

「中学校図書館と高等学校図書館があり、それぞれ専任司書教諭がいる。学校の特色ある学びの 1 つとして、「学びの基地図書館」を掲げており、様々な教科などと協働して独自のオリジナル探求型学習のプログラムを展開している。高校図書館の蔵書数は、約 80,000 冊、新聞 5 紙、雑誌 26 種類、有料データベース 3 種類が利用できる。」⁶

また、学校の特色ある教育として学校図書館をあげ、「自ら課題を見つけ考えを出し合っ解決策を見出す探求型学習の土台作りとして、多種多様な新書の中から自分で選んだものを読ませている」⁷ 「図書館を介して、各教科間の連携も進んでおり、例として家庭科

と国語科が連携し『人生で遭遇する問題を予測し、その解決策を考える』という取り組みも行われている。学校図書館は、「教科と教科をリンクさせ学びを深化させる図書館」になっている⁸ということが進学情報誌でも紹介されている。

質問紙調査の結果から以下のことが明らかになっている。

キャリア教育としては、講演会の他、卒業生が来校して現在の職業について在校生と懇談する会（在卒懇）の開催や、宿泊行事による進路研修などが行われている。学校図書館は、キャリア教育に関する支援を行っており、キャリア教育に関連する所蔵図書は約 350 冊、雑誌や新聞はキャリア教育を目的に購入していないが、キャリア教育に活用されることが多い。さらに以下の回答があった。

「高等学校図書館では、小論文対策を中心に、職業や大学関連の資料を併せて「進路コーナー」として設置している。受験対策だけではなく、社会に出てから役立つ力を培うことを目的としている。このコーナーの設置により、中学校図書館との差別化となり、高等学校図書館の特色の1つになっている。キャリア教育関連のテーマ別新書リストを作成している。なお、キャリア教育関連資料の利用は高校3年生が一番多い。」

これらのことより、A校と同様にB校でも、キャリア教育のみならず、日頃から学校図書館を活用した学びが展開していることがわかる。さらにB校では、学校図書館と教科という連携だけではなく、学校図書館が他の教科と教科を結ぶ役割を担うことで、教科ごとに独立しがちな高等学校の学びを深める役割を果たしている。その学びの基地で、中学校図書館と差別化し、高等学校図書館を特色付けるものとして「進路コーナー」を設置し、探究型学習の土台作りとして新書の読書を推進している点が評価できる。

(3) 事例3 C校

完全中高一貫の女子校である。卒業生の約9割が4年生大学へ進学する。学校の教育目標として世界を舞台に社会で活躍できる日本の女性の育成を掲げ、特色あるキャリア教育を実践している。

回答があった学校図書館担当者は、常勤学校司書である。

学校ホームページによると、学校図書館の概要は以下の通りである。

「学校図書館は「読書」と「学習」を支える場である。蔵書数約46,000冊、新聞6紙、雑誌40種類を所蔵している。図書館を「閲覧室」「学習室」「ブラウジングルーム」として、その機能により分けている。「閲覧室」は授業、自習などで使い、基本的なレファレンス資料も備える。「学習室」は自習をするための部屋で、私語は厳禁。「ブラウ

ジングウーム」は話し合いながら活動ができる部屋であり、部活や委員会の話し合いにも利用されている。」⁹

同様に学校ホームページによると、C校でのキャリア教育の概要は以下の通りである。

「28才になったときに、社会で活躍している女性を育てます」をスローガンに専門職大学院などへの進学をめざした学習指導、社会で活躍できる高いコミュニケーション能力の育成、国際舞台での基礎スキルとなる英語能力の向上などに力を入れ、しっかりとした将来のビジョンを持って行動できる女性を育てることを目標としている」¹⁰

質問紙調査の結果から以下のことがわかっている。

仕事調べ、小論文指導、講演会の他、特色あるキャリア教育として、企業とコラボレーションした商品開発、起業体験プログラム、外部講師を招いた特別講座などが行われている。学校図書館はキャリア教育に関する支援を行っており、資料はどのジャンルも偏りなく収集するよう意識している。学校図書館の蔵書の中で、NDCの3類の資料の割合が高くなっている。キャリア教育関連の資料は、生徒に時々使われている。キャリア教育関連資料の展示コーナーは設置していないが、授業用のホームページに載せるスライドを作成している。キャリア教育担当教員と連携した活動を行っており、司書もキャリア教育の授業にメンターとして参加している。学校図書館以外には、キャリア教育に関する資料は配置していない。

質問紙調査より、特色のあるキャリア教育とそれに対応した学校図書館のキャリア教育への支援が行われていることが明らかになった。司書がキャリア教育にメンターとして参加している例も珍しい。聞き取り調査をお願いしたかったが、学校の事情により行えず、メールで対応していただいた。

回答者は、常勤学校司書で、質問項目は聞き取り調査の内容に準じて行った。回答日は、2017年12月1日である。

[質問1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[回答]

特にキャリア教育に限らず、常に授業を支援する場でありたいという目的で取り組んでいる。

取り組みの具体的な内容としては、小論文指導で紹介された図書の購入をはじめ、幅広い職業に関する図書を揃えるように意識をしている。企業とコラボする授業や外部講師を招いた特別授業、起業体験などで、各テーマに沿った図書を揃えるようにしている。おた

よりでこれらの書籍があることを広報する。資料の探し方に関するスライドを作成し、内部ホームページに載せる。

[質問 2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

おたよりなどの広報紙で全校生徒にお知らせすると、借りたり、閲覧したりする生徒が増える。

[質問 3] 支援する際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

中学1年生、高校1~3年生はiPadを所有しているので、学校内だと手軽に調べることができる。図書室にも調べるためのiPadがあるので、自由にインターネットで調べることが可能である。そのためか、最近の出来事やニュースなどテーマによって、生徒はネットに頼りがちになる。情報の正確さ、信頼性などの意識をどのように生徒に伝えるかが課題である。

図書室を活用する生徒はまだ一部なので、全体として活用してもらえよう働きかけることが課題だと思っている。

「調べたい」よりも「面倒くさい」という意識の生徒が多いので、物理的な距離はどうしようもないが、図書やデータベースを使用するハードルを下げたい。

広報誌もタイミング良く生徒のニーズと合致すればよいが、テスト前や学校行事前は見過ごされがちになる。どのタイミングでお知らせするのが効果的なのかは、まだきちんと把握できておらず、難しく感じている。

[質問 4] キャリア教育担当教員との連携した活動は、具体的にどのように行っていますか

[回答]

図書、新聞、雑誌、CiNii、オンラインデータベース等の二次情報の情報収集の仕方についてまとめたスライドを作成し、キャリア教育授業用の内部ホームページに掲載している。お茶の水女子大学での例¹¹を参考に、本校に合わせて作成した。

メンターとして参加している教員はだいたい2~5チームくらいを担当し、調べ方・まとめ方・発表方法について助言を行う。学校司書は、2チーム担当し、助言をしたり、発表の練習につきあったりした。

[項目 5] 連携した活動による効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

ジャパンナレッジの認知度が高まり、利用者が増えた。

「行き詰ったら図書室」というグループが何グループもあり、図書室に対する認識が変わったのは良かった。

[項目 6] 連携する際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

学年によって、できること・できない（まだ活用しきれない）ことがあるので、高校 2 年生向けに作ったスライドを中学 1 年生にそのまま活用できず、各学年に対応しようとすると時間や手間がかかり（他の業務もあるので）、全学年に対応するには難しいと思った。本校では、iPad を持っている学年と持っていない学年があるので、それに関する配慮も手間だった。

生徒達がどこまでのスキルを持っているかは、長年勤めていないとわからないので、勤め始めた頃はそれがわからず手探り状態だった。

[項目 7] 学校図書館のキャリア教育支援の教育効果をどのように評価しているか教えてください

[回答]

まだ課題も多く発展途中なので、なんともいえない

C 校でも、A 校や B 校と同様に、常に授業を支援する場でありたいという目的意識で学校図書館が運営されている。そして、C 校では、学校の教育方針として掲げている特色あるキャリア教育を学校全体で支えており、学校図書館担当者もその一員としてキャリア教育に参加している。授業に即した資料の準備から、おたよりによる広報活動まで資料提供における一連の支援を展開するだけでなく、資料の調べ方についてのスライドをキャリア教育の授業用ホームページに掲載しているなど画期的な取り組みもされている。支援する上では、中高一貫校の図書館であるため、6 学年への対応が必要とされ、それぞれの学年の状況に合わせた支援の難しさが課題としてあげられている。また、同じ学校図書館で長い間勤務することにより、学校図書館担当者が、その学校の生徒のスキル等を把握し、よりよい支援ができることがわかる。キャリア教育と連携した活動を行った結果、「行き詰ったら図書室」という認識が生徒の中で出てきたという効果もあげられている。

(4) 3校の事例から

3校の事例は、キャリア教育への特徴的な支援をしている学校図書館の事例であるが、学校図書館とキャリア教育との連携が成功している例でもある。成功の要因として以下の4点が共通してあげられる。

- ・学校が教育方針としてキャリア教育に力をいれており、学校図書館が教育課程に位置付けられていること
- ・学校図書館が「学習センター」として活用できる施設・設備として整っており、日常的に学校図書館を活用した学習が行われていること
- ・学校図書館が「情報センター」として、その学校の生徒の学びに対応した十分な資料を提供していること
- ・学校図書館担当者が、学校の教育方針を理解し、その教育を担う一員として学びの支援をしていること

これらのことから、学校図書館が日ごろから学びの場として機能するための基本的な準備を整え、学校図書館担当者が学校の教育方針に合わせた支援をすることで、学校図書館とキャリア教育との連携が可能になるといえる。

4.3 まとめ

高等学校図書館におけるキャリア教育への支援の現状と課題を明らかにするために、都内私立高等学校228校の学校図書館担当者に質問紙調査を行った。31.1%の71校から回答があった。回答者の内訳は、専任司書教諭47.9%、常勤学校司書31%、兼任司書教諭9.9%、非常勤学校司書7%、その他である。調査結果から、88.7%の学校でキャリア教育が行われており、キャリア教育の内容としては、講演会、仕事調べ、小論文指導の他、進学に関わるもの、職業に関わるもの等、様々な取り組みがされていることが明らかになった。

回答があった学校の81.2%で、学校図書館によるキャリア教育への支援が行われていることがわかった。残りの約2割の学校図書館では、キャリア教育への支援は行われていなかった。その理由として、キャリア教育は進路指導部が行っているためという回答の他、具体的にキャリア教育への支援を指示されていない、教員からの要望がないという回答があった。

高等学校図書館のキャリア教育への支援としては、大きく分けて「資料提供」「調べ方の指導」「場の提供」の3種類の支援が行われていた。

キャリア教育への支援の中核をなしていたのは「資料提供」による支援である。キャリア教育に関する図書の所蔵状況は、200冊から300冊が大半を占めるが、キャリア教育目的で購入されていない本もその用途で使われていることが多く、実際には、この冊数以上

に多くの本がキャリア教育の資料として利用されていることが伺える。これは、新聞に関しても同様で、新聞はキャリア教育の目的では購読していないが、キャリア教育で使われることが多いことが特筆される。また、キャリア教育に関する資料は、幅広い分野に偏りなく対応することと、時代にあった新しい情報であることが重要視されていた。さらに、デジタルコンテンツ等の多様化する資料への対応も求められている。多くの高等学校図書館で、ペリカン社の『なるには BOOKS』と新書が利用されていることも明らかになった。資料の提供方法として、キャリア教育関連図書の展示コーナーを設置している学校図書館は67.7%に及ぶが、リストやパスファインダー等のツール類を作成している学校図書館は、22.6%であった。

「調べ方の指導」としては、資料の探し方の指導や、レポートを作成するための指導などが行われている。しかし、キャリア教育と連携した活動として、学校図書館がこれらの取り組みをしている例は少数である。

「場の提供」としては、学校図書館で授業や調べものをするだけでなく、キャリア教育で行ったインターンシップの様子を展示している学校や、講演会や講義等のキャリアガイダンスを行っている学校が、それぞれ1校ずつあった。

キャリア教育と連携した活動を実施しているのは、16.4%の10校のみで、殆どの学校で連携した活動は行われていないことがわかった。

また、キャリア教育関連の資料は、60.3%の学校で学校図書館以外の進路指導室やホームルーム教室にも配置されていることがわかった。さらに、それらの管理は、進路指導部や学年または担任が行っており、学校図書館は関わっていないことも明らかになった。

調査結果から学校図書館によるキャリア教育への支援は、生徒の意識・意欲、関心度の向上に寄与しており、また生徒が進路を選択する上での一助となっていることが明らかになった。これはキャリア教育が目指すところの「基礎的・汎用的能力」の育成の効果と考えられる。さらに、キャリア教育への支援は、生徒の読書の幅を、読み物だけではなく新書やノンフィクションの本などへと広げる効果もある。また、学校図書館運営においても、キャリア教育支援をきっかけに利用者の増加つながる、利用指導の機会ができる、資料購入の参考になる、などの効果が期待できる。

一方で、キャリア教育支援を行う上での課題として、社会の変化に対応した資料や新しい情報を提供することの必要性や、デジタルコンテンツなど様々な資料への対応などがあげられる。また、生徒一人ひとりの発達段階や意欲に応じた指導や、テーマに即した資料活用の指導など、利用指導の上の課題もある。支援をする上で、学校図書館担当者が、学校の教育方針を理解し、教員や生徒の要望にきちんと対応することも不可欠である。これらの利用指導上の課題は、学校図書館担当者の資質・能力によるところも大きいと考えられる。さらに、学校図書館とキャリア教育とが連携した活動をするには、キャリア教育担当の校務分掌との連携が必須であり、担当者が変わっても複数年に渡って継続して行える

系統的な計画が必要である。キャリア教育は、学校の教育方針の転換に左右されやすく、その継続性に課題が残る。

キャリア教育への特徴的な支援をしている学校図書館の事例は、キャリア教育と学校図書館の連携した活動が成功している事例でもある。3校に共通して、「学校の教育方針としてキャリア教育が推進されており、教育課程へ学校図書館が位置付けられていること」「学校図書館が学習センターとして機能し、日常的に学校図書館での学びが行われていること」「学校図書館が情報センターとして十分に機能し、生徒や教員のニーズにあった資料を提供していること」「学校図書館担当者が、学校の教育方針を理解した上で、その教育を担う一員として学びの支援をしていること」があげられる。これらの共通点は、キャリア教育と学校図書館の連携した活動を成功させる要因であると考えられる。

-
- 1 ペリかん社ホームページ
<http://www.perikansha.co.jp/Search.cgi?mode=NARU&key=0&word=>
(参照 2017-12-11) .
 - 2 森智彦. 司書になるには. ペリかん社. 2016, 155p.
 - 3 前掲 2
 - 4 文部科学省. 平成 29 年度学校基本調査 (速報値) の公表について. 2017-12-22.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/12/22/1388639_1.pdf, (参照 2018-01-08).
 - 5 中央大学附属中学校・高等学校ホームページ
<http://chu-fu.ed.jp/campus/library.html>, (参照 2017-11-25) .
 - 6 東京純心女子中学校・高等学校ホームページ
<http://www.t-junshin.ac.jp/jhs/study/active.html>, (参照 2017-11-25) .
 - 7 私立中高進学通信. 栄光. 2017.11, vol.292, p18-19.
 - 8 前掲 7
 - 9 品川女子学院ホームページ
<http://www.shinagawajoshigakuin.jp/01guide/28.html>, (参照 2017-11-25) .
 - 10 前掲 9
 - 11 お茶の水女子大学附属図書館. 「持続可能な社会の探究 I」をより楽しむための大学図書館活用術. 2016-03-16.
<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/59088>, (参照 2017-12-10) .

第5章 高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援と課題

本章では、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察するために行った、学校図書館担当者及びキャリア教育担当教員への聞き取り調査の結果を述べる。

5.1 聞き取り調査の概要

5.1.1 聞き取り調査の目的

聞き取り調査の目的は、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援や、学校図書館とキャリア教育との連携の在り方について、具体的な取り組みや、取り組みによる効果、その際の問題点等を明らかにするためである。

5.1.2 聞き取り調査の方法

筆者が対象校を直接訪問し、学校図書館担当者またはキャリア教育担当教員にインタビュー形式で、あらかじめ用意した質問項目について聞き取り調査をする。聞き取り調査開始前に、調査への参加同意書への署名を任意で依頼する。また、聞き取り調査対象者の了承のもと、ボイスレコーダーにインタビューを録音させてもらう。

5.1.3 聞き取り調査の対象

聞き取り調査の対象校は、学校図書館が効果的なキャリア教育への支援を行っている、またはキャリア教育担当教員と連携した活動を行っていることが、事前に行った質問紙調査からわかった学校の学校図書館担当者である。質問紙調査の回答時に、聞き取り調査への同意をもらった学校図書館担当者の中から、条件に該当する学校を選出し依頼した。2校の学校図書館担当者、各1名、計2名にインタビューを行った。キャリア教育担当教員へのインタビューも行いたかったが、授業等の関連から時間調整ができず実現しなかった。

さらに、質問紙調査でキャリア教育への支援は行っているが、効果的な支援になっていない、支援に課題を抱えているということがわかった学校1校の学校図書館担当者及びキャリア教育担当教員、各1名、計2名へのインタビューも行った。

聞き取り対象校に関する質問紙調査からわかっていることは以下の通りである。

(1) 事例4 D校

D校は、質問紙調査から「ペリかん社『なるには BOOKS』は全点購入し、キャリア教育に関連する図書は、約500冊所蔵している。キャリア教育担当教員（学年）と連携して、生徒の実態に合わせた分野別新書リストを作成し、提供している。この取り組みによる効果として、生徒が自分の志望に合わせた新書を読むことで、志望理由を明確かつ具体的に

書いたり、言ったりすることができるようになった。」ということが明らかになっている。この取り組みの実践者である学校図書館担当者の専任司書教諭に聞き取り調査を行った。

(2) 事例 5 E校

E校は、質問紙調査から「キャリア教育における仕事調べを学校図書館で行っている。キャリア教育関連資料の収集において、職種や資格等の変化にあわせ資料の更新年限を具体的に定めており、キャリア教育関連資料は生徒によく使われている。この取り組みにより、生徒の授業への集中度が向上し、また中学生や高校初年度の生徒にも大学や社会への関心度が高まった。」ということが明らかになっている。この取り組みの実践者である学校図書館担当者の兼任司書教諭に聞き取り調査を行った。

(3) 事例 6 F校

F校は、質問紙調査で「学校図書館では、小論文作成や面接に必要な資料提供をしているが、その支援は図書館に来た生徒への個別対応にとどまり、組織的な活動は行っていない。担当教員と密に連携をとることが課題である。」ということが明らかになっている。この学校図書館担当者である常勤学校司書、及びキャリア教育（進路担当）教員に聞き取り調査を行った。

5.1.4 聞き取り調査の項目

学校図書館担当者への調査項目は以下の通りである。

[質問 1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[質問 2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[質問 3] その際の問題点や課題等があったら教えてください

(キャリア教育担当教員と連携した活動を行っている場合は、以下に続く。)

[質問 4] キャリア教育担当教員と連携した活動は、具体的にどのように行っていますか

[質問 5] 連携した活動による効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[質問 6] 連携する際の問題点や課題等があったら教えてください

[質問 7] 学校図書館のキャリア教育支援の教育効果をどのように評価しているか教えてください

キャリア教育担当教員への調査項目は以下の通りである。

[質問 1] キャリア教育において、学校図書館と連携した活動を行っていますか？

[質問 2] 連携した活動を行っていない場合は、その理由を教えてください

[質問 3] 今後どのようにしたら、連携した活動を行うことができると考えますか？

5.2 聞き取り調査結果の分析

5.2.1 効果的な支援を行っている学校図書館の事例

(1) 事例 4 D 校

・調査の概要

2017年11月18日 10時にD校を訪問し、約25分間、学校図書館担当者である専任司書教諭の先生にインタビューをした。質問に対する回答は、録音したボイスレコーダーからおこしたものを筆者が要約したものである。

・学校の概要

生徒数約900名の女子高等学校である。

昨年度は卒業生の約8割が、4年制大学、短期大学、専門学校に進学した。一般入試での進学は特進クラスのみで、大半の生徒がAO入試、推薦入試で進学する。卒業生の2割は就職する。生徒一人ひとりの希望を尊重するため、この割合は、年度により変動する。近年、看護・福祉・保育系志望者が増えている。私立学校の中でも、授業料が比較的安く、母子家庭・父子家庭や低所得家庭の生徒も多いため、最近では就職希望の生徒も少なくない。

キャリア教育として、学校では進路の日を設定しており、高校1、2年生対象に大学や専門学校の先生による模擬授業を行っている。高校3年生には、地元企業によるスーツの着こなし講座や、名刺の受け渡し講座、マネー教育、模擬裁判などの社会人講座も行っている。進路指導部には就職担当教育があり、生徒の希望にあわせた細やかな指導をしている。

・聞き取り調査結果

[質問 1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[回答]

前校長の考えで学校全体で総合的な学習として、月曜日から金曜日の朝10分間、合計50

分間の朝読書を実施している。この朝読書では、記録をつけること、教員推薦図書から最低 1 冊は読むこと、夏休みの読書感想文の提出の 3 つを単位の条件として行っている。朝読書の記録は、3 年間累計していく。その朝読書の中で、進路を考えるためのキャリア教育として、高校 3 年生に新書を最低でも 1 冊は読むことを課している。この新書の読書により、小論文指導・小論文対策にもなっている。

学校図書館は、その準備として『岩波ジュニア新書』や『ちくまプリマー新書』を中心に読みやすい新書リストを作成し、高校 2 年生に「はじめての新書」(図 5-1)、「高校生向けの読みやすい新書」(図 5-2)を提供した。このリストの本の読書は強制ではなく、新書に慣れてもらうことを目的とした。リストの扱いは学年に任せたので、生徒に配布したクラスがある一方、教室掲示のみのクラスもあった。

この取り組みをふまえ、高校 3 年生に「志望系統別おすすめ新書」(図 5-3 から図 5-10)を作成し、4 月に配布した。また、この「志望系統別おすすめ新書」リストに紹介した本を新書の書架(図 5-11、図 5-12)とは分けて、ブックトラックに別置き(図 5-13)し、学校図書館内のカウンター付近で紹介している。高校 3 年生は、最低でも 1 冊は新書を読むことが義務付けられている。朝読書用の教員推薦図書リストの配布は夏休み前なので、その前に新書リストから新書を読むことを推奨している。

『学び続ける力』
池上彰 講談社現代新書

知強を「やらされている」と思っている人はいませんか？ ニュースの解説でおなじみの池上さんは、「学びは学びほど自分の知らないことに出会う」と言います。だから、学ぶことは楽しいと、何をどう学んだらいいのかのヒントが書かれています。



『環境のない生き方』
ヤマザキマリ 小学館新書

『テルマエ・ロマエ』の作者である著者は、14歳で一人ヨーロッパを旅し、その後17歳でイタリア留学をしました。その間、貧乏生活や挫折を経験。今の彼女があるのは、たくさんの本と旅行のおかげ。新書がある人はどんな状況でも生き抜けます。



『聞く力』
阿川佐和子 文春新書

数々のインタビュや対談をしてきた阿川さんは、聞くことがコミュニケーションの第一歩と言っています。しかし、人は意外と人の話を聞いていないそうです。聞くということがどういふことか、改めて考えてみませんか？



『(刑務所)で盲導犬を育てる』
大塚敦子 岩波ジュニア新書

盲導犬は、通常、訓練を受けるまでの間、一般家庭で育てられます。その盲導犬候補の子犬を刑務所で、受刑者が育てる試みが盲導で行われています。犬を育てること、罪を犯した人々がどのように変わっていくのでしょうか。



『いのちはなぜ大切なのか』
小澤竹俊 ちくまプリマー新書

「命を大切にしましょう」一度は思われたことがあると思います。当たり前のように言われるけど、なぜか聞いて覚えられない人は少ないでしょう。ホスピス医でもある著者が、命の大切さとはどういうことなのか、わかりやすく説明してくれています。



はじめての新書

2017年発行

そろそろ進路を考える時期。入試で小論文を書かれることも多く、その時に必要なのが基礎知識。国語や数学や英語など教科の勉強だけではなく、今、社会で起きていること、話題になっていることなども知っていただければいいと思います。その基礎知識は、新書などを読むことによって得られます。読みなれない人には嬉しい「新書」。読みやすいものを集めましたので、まずは新書に慣れましょう。

『なんにもないけどやってみた』
栗山さやか 岩波ジュニア新書

渋谷109のショップ店員だった著者は、仕事を辞めて世界放浪の旅に出ました。たまたま立ち寄ったアフリカの産物市場でHVや集団に苦しむ女性を見た著者は、何の知識もないけどボランティアを始めます。生々しい現状を感じてください。



『綾瀬はるか「戦争」を聞く』
TBS7ch 'NEWS23' 取材班 編
岩波ジュニア新書

広島で生まれた綾瀬さんが、ヒロシマ・ナガサキの被害者や犠牲者の関係者や元へ行き、当時の戦争についてのお話を聞いた記録です。沖縄の戦争旅行で戦争を学んだ今、ぜひ読んでほしい本です。



『大学で大人気の先生が語る〈恋愛〉と〈結婚〉の人間学』
佐藤剛史 岩波ジュニア新書

結婚をするかしないかは自由ですし、誰かに強制されるものでもありません。皆さんはどう考えますか？大学で「婚学」を教える著者の、こういう生き方をすることもめた、恋愛・結婚のアドバイスです。



『日本人のここがカッコイイ！』
加藤崇子 文春新書

日本で生活している外国の方へのインタビューをまとめたもの。日本人のここがカッコイイというものもあれば、ここがオカシイというものも指摘されています。私たちの当たり前は、外国の人たちには不思議だったりするんですね。外国に興味がある人は、読んでみてください。



図 5-1 はじめての新書 (出典 D校提供資料)

○●○ 志望系統別おすすめ新書 ○●○			
人文科学系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
やさしさの精神病理	大平健	岩波新書	081-I-409
メディア・リテラシー	菅谷明子	岩波新書	081-I-680
「わかる」とは何か	長尾真	岩波新書	081-I-713
異文化理解	青木保	岩波新書	081-I-740
若者の法則	香山リカ	岩波新書	081-I-781
読書力	齋藤孝	岩波新書	081-I-801
多文化世界	青木保	岩波新書	081-I-840
コミュニケーション力	齋藤孝	岩波新書	081-I-915
だます心だまされる心	安斎育郎	岩波新書	081-I-954
論語入門	井波律子	岩波新書	081-I-1366
古典力	齋藤孝	岩波新書	081-I-1389
哲学のヒント	藤田正勝	岩波新書	081-I-1413
哲学の使い方	齋田清一	岩波新書	081-I-1500
対話する社会へ	暉峻淑子	岩波新書	081-I-1640
哲学ってなんだ	竹田青嗣	岩波ジュニア新書	081-I-415
哲学のことは	左近司祥子	岩波ジュニア新書	081-I-557
じぶん・この不思議な存在	齋田清一	講談社現代新書	104-W
わかりあえないことから	平田オリザ	講談社現代新書	361-H
アサーション入門	平木典子	講談社現代新書	361-H
「ピシヨな未来」をどう生きるか	藤原和博	ちくまプリマー新書	159-F
悩む力	姜尚中	集英社新書	159-K
「世間」とは何か	阿部謹也	講談社現代新書	302-A
「自分」の壁	養老孟司	新潮新書	304-Y
下流社会	三浦展	光文社新書	360-M
「弱者」とはだれか	小浜逸郎	PHP新書	361-K
ケータイ小説は文学か	石原千秋	ちくまプリマー新書	910-I
バカの壁	養老孟司	新潮新書	914-Y

図 5-3 志望系統別おすすめ新書 人文科学系 (出典 D校提供資料)

社会科学系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
ウェブ炎上	荻上チキ	ちくま新書	007-O
豊かさとは何か	暉峻淑子	岩波新書	081-I-85
日本の経済格差	橋本俊詔	岩波新書	081-I-590
公共事業は止まるか	五十嵐敬喜	岩波新書	081-I-717
戦後政治の崩壊	山口二郎	岩波新書	081-I-893
世界経済入門 第3版	西川潤	岩波新書	081-I-894
景気とは何だろうか	山家悠紀夫	岩波新書	081-I-933
格差社会	橋本俊詔	岩波新書	081-I-1033
少子社会日本	山田昌弘	岩波新書	081-I-1070
ルボ貧困大国アメリカ	堤未果	岩波新書	081-I-1112
反貧困	湯浅誠	岩波新書	081-I-1124
ルボ貧困大国アメリカ II	堤未果	岩波新書	081-I-1225
希望のつくり方	玄田有史	岩波新書	081-I-1270
在日外国人	田中宏	岩波新書	081-I-1429
ひとり親家庭	赤石千衣子	岩波新書	081-I-1481
日本の農業を考える	大野和興	岩波ジュニア新書	081-I-466
社会とどうかわるか	山脇直司	岩波ジュニア新書	081-I-608
中高生のための憲法教室	伊藤真	岩波ジュニア新書	081-I-612
社会の今を見つめて	大脇三千代	岩波ジュニア新書	081-I-725
憲法読本 第4版	杉原泰雄	岩波ジュニア新書	081-I-768
憲法はむずかしくない	池上彰	ちくまプリマー新書	302-I
国家の品格	藤原正彦	新潮新書	304-F
憲法九条を世界遺産に	太田光	集英社新書	323-O
「見えざる手」が経済を動かす	池上彰	ちくまプリマー新書	330-I
高校生のための経済学入門	小堀隆士	ちくま新書	331-O
景気ってなんだろう	岩田規久男	ちくまプリマー新書	337-I
日本の雇用	大久保幸夫	講談社現代新書	366-O
ルボ若者ホームレス	飯島裕子	ちくま新書	368-I
世界「比較貧困学」入門	石井光太	PHP新書	368-I
現代の貧困	岩田正美	ちくま新書	368-I
生活保護 v s 子どもの貧困	大山典宏	PHP新書	369-O
「かわいい」論	四方田犬彦	ちくま新書	704-Y

図 5-4 志望系統別おすすめ新書 社会科学系 (出典 D校提供資料)

教育・福祉系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
子どもと学校	河合隼雄	岩波新書	081-I-212
子どもとあそび	仙田満	岩波新書	081-I-253
子どもの社会力	門脇厚司	岩波新書	081-I-648
子どもの危機をどう見るか	尾木直樹	岩波新書	081-I-686
学力があふない	大野晋	岩波新書	081-I-712
「わかる」とは何か	長尾真	岩波新書	081-I-713
学問と「世間」	阿部謹也	岩波新書	081-I-735
幼児期	岡本夏木	岩波新書	081-I-949
教育力	齋藤孝	岩波新書	081-I-1058
障害児教育を考える	茂木俊彦	岩波新書	081-I-1110
子どもの貧困	阿部彩	岩波新書	081-I-1157
社会力を育てる	門脇厚司	岩波新書	081-I-1246
日本の教育格差	橋本俊昭	岩波新書	081-I-1258
赤ちゃんの不思議	関一夫	岩波新書	081-I-1311
自閉症スペクトラム障害	平岩幹男	岩波新書	081-I-1401
いじめ問題をどう克服するか	尾木直樹	岩波新書	081-I-1456
子どもの貧困 II	阿部彩	岩波新書	081-I-1467
保育とは何か	近藤幹生	岩波新書	081-I-1509
ルポ保育崩壊	小林美希	岩波新書	081-I-1542
ネットいじめ	荻上チキ	PHP新書	367-O
ルポ虐待	杉山春	ちくま新書	367-S
教育改革の幻想	刈谷剛彦	ちくま新書	370-K
教育幻想	菅野仁	ちくまプリマー新書	371-K
教育格差の真実	尾木直樹	小学館101新書	372-O
新しい「教育格差」	増田ユリヤ	講談社現代新書	373-M
ドキュメント高校中退	青砥恭	ちくま新書	376-A
赤ちゃんは世界をどう見ているのか	山口真美	平凡社新書	376-Y
日本人のしつけは衰退したか	広田照幸	講談社現代新書	379-H
親と子の食物アレルギー	伊藤節子	講談社現代新書	493-I
愛着障害	岡田尊司	光文社新書	493-O
目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤亜紗	光文社新書	369-I
高齢者医療と福祉	岡本祐三	岩波新書	081-I-456
居住福祉	早川和男	岩波新書	081-I-527
日本の社会保障	広井良典	岩波新書	081-I-598
介護保険	中井清美	岩波新書	081-I-820
当事者主権	中西正司	岩波新書	081-I-860
少子社会日本	山田昌弘	岩波新書	081-I-1070
介護	結城康博	岩波新書	081-I-1132
ルポ認知症ケア最前線	佐藤幹夫	岩波新書	081-I-1308
在宅介護	結城康博	岩波新書	081-I-1557
ボランティアの考え方	秦辰也	岩波ジュニア新書	081-I-324
福祉ってなんだ	古川孝順	岩波ジュニア新書	081-I-583
「できること」の見つけ方	石田由香理	岩波ジュニア新書	081-I-791
「弱者」とはだれか	小浜逸郎	PHP新書	361-K
社会保障を問いなおす	中垣陽子	ちくま新書	364-N
最貧困女子	鈴木大介	幻冬舎新書	368-S

図 5-5 志望系統別おすすめ新書 教育・福祉系 (出典 D校提供資料)

自然科学系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
科学技術の戦後史	中山茂	岩波新書	081-I-395
生命と地球の歴史	丸山茂徳	岩波新書	081-I-543
科学の目 科学のこころ	長谷川真理子	岩波新書	081-I-623
情報公開法入門	松井茂記	岩波新書	081-I-697
ヒトゲノム	榑佳之	岩波新書	081-I-728
IT革命	西垣通	岩波新書	081-I-729
遺伝子とゲノム	松原謙一	岩波新書	081-I-815
疑似科学入門	池内了	岩波新書	081-I-1131
科学者が人間であること	中村桂子	岩波新書	081-I-1440
納得の老後	村上紀美子	岩波新書	081-I-1489
クローンの世界	中内光昭	岩波ジュニア新書	081-I-315
素粒子はおもしろい	益川敏英	岩波ジュニア新書	081-I-697
これからのエネルギー	榎屋治紀	岩波ジュニア新書	081-I-746
宇宙と生命の起源	小久保英一郎	岩波ジュニア新書	081-I-777
クマゼミから温顔化を考える	沼田英治	岩波ジュニア新書	081-I-833
地球温暖化は解決できるのか	小西雅子	岩波ジュニア新書	081-I-837
考えないヒト	正高信男	中公新書	361-M
生物と無生物のあいだ	福岡伸一	講談社現代新書	460-F
生命科学の冒険	青野由利	ちくまプリマー新書	461-A
レイチェル・カーソンはこう考えた	多田満	ちくまプリマー新書	519-T
ビックリするほどiPS細胞がわかる本	北條元治	サイエンス・アイ新書	491-H
ひらめき脳	茂木健一郎	新潮新書	491-M

図 5-6 志望系統別おすすめ新書 自然科学系 (出典 D校提供資料)

医・薬・看護系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
医者と患者と病院と	砂原茂一	岩波新書 黄版	081+236
医療の倫理	星野一正	岩波新書	081+201
がん告知以後	季羽倭文子	岩波新書	081+305
看護	増田れい子	岩波新書	081+430
高齢者医療と福祉	岡本祐三	岩波新書	081+456
生活習慣病を防ぐ	香川靖雄	岩波新書	081+679
健康ブームを問う	飯島裕一	岩波新書	081+723
生体肝移植	後藤正治	岩波新書	081+804
感染症とたたかう	岡田晴恵	岩波新書	081+870
認知症とは何か	小澤勲	岩波新書	081+942
新型インフルエンザ	山本太郎	岩波新書	081+1035
がん緩和ケア最前線	坂井かをり	岩波新書	081+1067
がんとうとう向き合うか	額田勲	岩波新書	081+1076
「尊厳死」に尊厳はあるか	中島みち	岩波新書	081+1092
ルボ高齢者医療	佐藤幹夫	岩波新書	081+1176
看護の力	川嶋みどり	岩波新書	081+1391
医療の選択	桐野高明	岩波新書	081+1492
ルボ看護の質	小林美希	岩波新書	081+1614
人類VS感染症	岡田晴恵	岩波ジュニア新書	081+491
医療のこと、もっと知ってほしい	山岡淳一郎	岩波ジュニア新書	081+637
安楽死と尊厳死	保阪正康	講談社現代新書	490-H
脳死・クローン・遺伝子治療	加藤尚武	PHP新書	490-K
穏やかな死に医療はいらぬ	葛田緑平	朝日新書	490-M
脳死と臓器移植法	中島みち	文春新書	490-N
認知症を知る	飯島裕一	講談社現代新書	493-I
新しいリハビリテーション	大川弥生	講談社現代新書	494-O
脱法ドラッグの罣	森鷹久	イースト新書	499-M

図 5-7 志望系統別おすすめ新書 医・薬・看護系 (出典 D校提供資料)

国際関係・情報系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
民族と国家	山内昌之	岩波新書	081+260
転換期の国際政治	武者小路公秀	岩波新書	081+434
異文化理解	書木保	岩波新書	081+740
デモクラシーの帝国	藤原帰一	岩波新書	081+802
多文化世界	書木保	岩波新書	081+840
現代の戦争被害	小池政行	岩波新書	081+903
いま平和とは	最上敏樹	岩波新書	081+1000
〈私〉時代のデモクラシー	宇野重規	岩波新書	081+1240
世界共和国へ	柄谷行人	岩波新書	081+1001
平和構築	東大作	岩波新書	081+1190
グリーン資本主義	佐和隆光	岩波新書	081+1221
教育で平和をつくる	小松太郎	岩波ジュニア新書	081+550
世界の国1位と最下位	眞淳平	岩波ジュニア新書	081+664
国際協力がってなんだろう	高橋和志 編	岩波ジュニア新書	081+668
21世紀はどんな世界になるのか	眞淳平	岩波ジュニア新書	081+770
紛争・対立・暴力	西崎文子	岩波ジュニア新書	081+842
高校生のためのメディア・リテラシー	林直哉	ちくまプリマー新書	007-H
ネットとリアルのあいだ	西垣通	ちくまプリマー新書	007-N
ウェブ炎上	荻上チキ	ちくま新書	007-O
メディア・リテラシー	菅谷明子	岩波新書	081+680
IT革命	西垣通	岩波新書	081+729
メディア社会	佐藤卓己	岩波新書	081+1022
ウェブ社会をどう生きるか	西垣通	岩波新書	081+1074
コピキタスとは何か	坂村健	岩波新書	081+1080
デジタル社会はなぜ生きにくいのか	徳田雄洋	岩波新書	081+1185
メディアと日本人	橋元良明	岩波新書	081+1298
インターネット新世代	村井純	岩波新書	081+1227
震災と情報	徳田雄洋	岩波新書	081+1343
サイバー時代の戦争	谷口長世	岩波新書	081+1393
たったひとつの「真実」なんてない	森澤也	ちくまプリマー新書	361-M
考えないヒト	正高信男	中公新書	361-M
つながり進化論	小川克彦	中公新書	361-O
ネット王子とケータイ姫	香山リカ	中公新書	367-K
ネット依存症	樋口進	PHP新書	371-H

図 5-8 志望系統別おすすめ新書 国際関係・情報系 (出典 D校提供資料)

工学・建築系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
フジモリ式建築入門	藤森照信	ちくまプリマー新書	520-F
天下無双の建築学入門	藤森照信	ちくま新書	521-F
木造建築を見直す	坂本功	岩波新書	081+672
自然な建築	隈研吾	岩波新書	081+1160
低炭素社会のデザイン	西岡秀三	岩波新書	081+1324
日本のデザイン	原研哉	岩波新書	081+1333
小さな建築	隈研吾	岩波新書	081+1410
世界遺産の建築を見よう	古市徹雄	岩波ジュニア新書	081+561
光が照らす未来	石井幹子	岩波ジュニア新書	081+666
ロボット創造学入門	広瀬茂男	岩波ジュニア新書	081+687
自然災害からいのちを守る科学	川手新一	岩波ジュニア新書	081+744
若者のためのまちづくり	服部圭郎	岩波ジュニア新書	081+752
5アンペア生活をやってみた	斎藤健一郎	岩波ジュニア新書	081+784
ご当地電力ははじめました!	高橋真樹	岩波ジュニア新書	081+795
デザインを科学する	ポーポーボロダクション	サイエンス・アイ新書	757-P

図 5-9 志望系統別おすすめ新書 工学・建築系 (出典 D校提供資料)

芸術・スポーツ系			
書名	著者名	叢書名	請求記号
名画を見る眼	高階秀爾	岩波新書 青版	081+E64
戦争と美術	司修	岩波新書	081+237
20世紀美術	宇佐美圭司	岩波新書	081+337
芸術のバトロンたち	高階秀爾	岩波新書	081+490
障害者とスポーツ	高橋明	岩波新書	081+896
人生を肯定するもの、それが音楽	小室等	岩波新書	081+888
Jポップとは何か	宇賀陽弘道	岩波新書	081+945
日本のデザイン	原研哉	岩波新書	081+1333
学校では教えてくれない音楽	大友良英	岩波新書	081+1520
夢を跳ぶ	佐藤真海	岩波ジュニア新書	081+604
ルールはなぜあるのだろう	大村敦志	岩波ジュニア新書	081+610
スポーツ教養入門	高峰修	岩波ジュニア新書	081+648
美術館へ行こう	草薙奈津子	岩波ジュニア新書	081+737
ライフスキル・フィットネス	吉田良治	岩波ジュニア新書	081+742
魂をゆさぶる歌に出会う	ウェルス恵子	岩波ジュニア新書	081+766
マンガミュージアムへ行こう	伊藤遊	岩波ジュニア新書	081+769
美術の核心	千住博	文春新書	701-S
美術館の舞台裏	高橋明也	ちくま新書	706-T
音楽を「考える」	茂木健一郎	ちくまプリマー新書	760-M
スポーツを仕事にする!	生島淳	ちくまプリマー新書	780-I
日本のアニメは何がすごいのか	津堅信之	祥伝社新書	778-O

図 5-10 志望系統別おすすめ新書 芸術・スポーツ系 (出典 D校提供資料)



図 5-11 新書の書架 岩波新書
 (出典 2017年11月18日 筆者撮影)



図 5-12 新書の書架 岩波ジュニア新書
 (出典 2017年11月18日 筆者撮影)

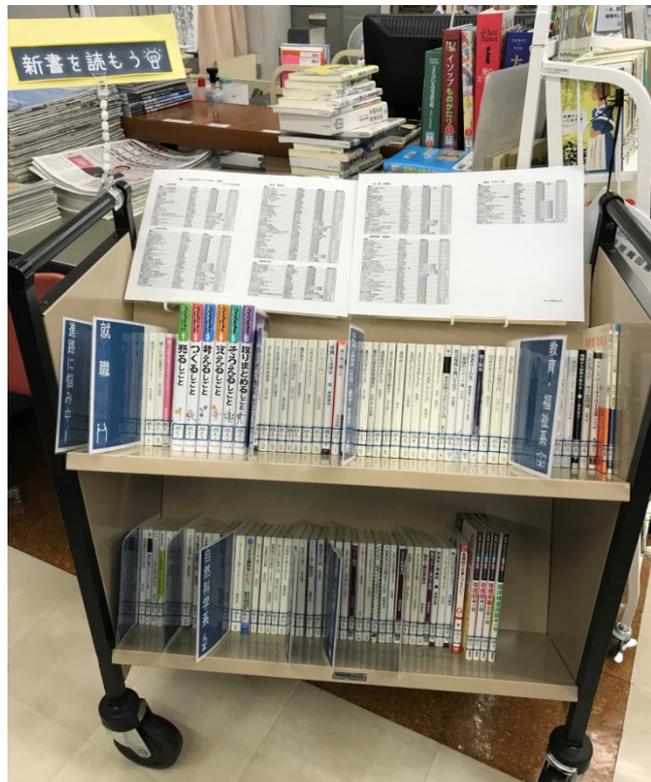


図 5-13 リストで紹介した新書のブックトラック
 (出典 2017年11月18日 筆者撮影)

[質問 2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

定期的に読書記録を回収し、学年主任、担任、司書教諭で確認しているので、生徒の読書の実態を把握することができる。その中で、今まであまり本を読まなかった、特に物語を想像するのが苦手で小説が読めなかった生徒が、新書なら読めた生徒がいた。1冊読み切ったことが、生徒の自信にもつながった。さらに、課題の1冊だけではなく、2冊、3冊と読み進める生徒が出てきた。司書教諭としても予想外の嬉しい効果だった。

面接の練習時に「読んだ新書が進路を考えるきっかけになった」と話す生徒もおり、新書を読むことで進路が明確になった生徒がいた。さらに、新書を読んだことで、志望校の志望理由を具体的に書ける、または言えるようになった生徒がいた。

[質問 3] その際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

進路が決まっていない、やりたいことが見つからない生徒には、いくら資料を与えても自分の進路に関連付けられないこともあり、「強制的に読まされたけれども、この新書は進路に全然役に立たなかった」という生徒もいた。

進路が明確に決まっても分野によっては、希望する進路に対応する新書が少ない、新書がないこともある。特に、芸能関係、声優、音響、舞台美術などの適当な新書がない。本校では、進路の日に、大学や専門学校の先生に校内で模擬授業をしてもらっている。その際、アニメ好きな生徒も多く、声優、舞台芸術、カメラマン等の専門学校の先生の模擬授業が人気だが、それらに関連する適当な新書が少ない。また、保育関係の希望者も多いが、該当する新書が貸出中の時に、関連するテーマの「子育て問題」や「少子化問題」の新書をすすめても、保育そのものずばりの新書でないと生徒が納得しない。

[質問 4] キャリア教育担当教員と連携した活動は、具体的にどのような行っていますか

[回答]

新書を読ませるにあたり、当初、学年の先生から予備校の小論文対策や小論文模試等で配布されている本のリストを提示されて相談を受けた。その内容は、岩波新書がほとんどで、何年にもわたり読書記録用紙をチェックしていた司書教諭の目から見て、生徒の読書能力の実態にそぐわないものであると感じた。最初から岩波新書を生徒に手渡したら、新書嫌いになってしまうという危惧があった。そこで、段階的に易しいものから読ませることを提案し、学校図書館所蔵の『岩波ジュニア新書』や『ちくまプリマー新書』などの読みやすい新書からリストを作成して紹介した。

学年主任が初めに相談してくれたことがよかった。相談なしにリストを配られていたら、生徒はますます読まなくなっていたかもしれない。

[質問 5] 連携した活動による効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

生徒たちは、学校の課題の新書を購入してまでは読みたくないのに、学校図書館に借りて来た。先生方も「リストで紹介している新書は図書館にあるから借りて読むように」ということを生徒に言ってくださった。これをきっかけに、生徒は、大学の AO 入試の課題や、合格後の課題にも図書館を頼ってくれるようになり、学校図書館の利用が増えた。

生徒は、新書を読むようになってからジャンルを問わず、本をたくさん読むようになった。「ライトノベルだけではなく、読書のジャンルが広がった」という声が、学年主任の先生からもきかれた。

学年主任が国語科の教員で、かつて司書教諭と一緒に図書館の担当をしたこともあり、日頃から生徒にいろいろな本を読ませたいという方針でいたのもよかったのかもしれない。

[質問 6] 連携する際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

今年度の 3 年生は国語科の教員である学年主任と若い担任団なので、学年主任の鶴の一声で連携がうまくとれたが、学年によって差があるので来年度は難しいかもしれない。継続して行うことが課題である。

本を強制して読ませることへの疑問もある。

リスト作成において、そのテーマが古い新書にしかないこともあり、新書をどこまで入れるかが問題である。新書リスト作成にあたり、他校の司書仲間に相談したり、インターネットの情報等も参考にしたりして行った。

[質問 7] 学校図書館のキャリア教育支援の教育効果をどのように評価しているか教えてください

[回答]

新書リストは 3 年ほど前から実施しているが、うまくいったのは今年度が初めてである。今までは「読みなさい」と言うだけだったので、読む生徒と読まない生徒がいた。強制して読ませることに疑問は残るが、それでも読ませてよかったと感じている。どの学年の先生も新書を読ませたいという思いは同じなので、継続して行うことが課題である。

[その他]

学校図書館担当の司書教諭は、授業なし、担任なしの専任司書教諭であり、職員室に席があり、職員会議にも出席する。しかし、校務分掌の広報担当でもあるため学校図書館以外の業務にも携わる。広報に関わることで仕事は増えるが、教員と連携が取りやすい、生徒の進路の状況が把握できるというメリットもある。

(2) 事例 5 E 校

・調査の概要

2017年11月18日 15時にE校を訪問し、約30分間、学校図書館担当者である兼任司書教諭の先生にインタビューをした。質問に対する回答は、録音したボイスレコーダーからおこしたものを筆者が要約したものである。

・学校の概要

2008年から高校の募集を廃止し、生徒数は中学・高校合わせて約1,400名の完全中高一貫の女子校である。卒業生のうち約10～15%が付属の大学へ進学し、約70%が他の4年制大学へ進学する。昨年度は、薬学部、看護学部など医療系の志望者が多かった。

キャリアへの意識付けを高める総合学習として、「キャリアプランニング」をコアにした学習活動を展開している。高校1年生では、企業研究、論文作成スキル、プレゼンテーションを行い、高校2年生では、研究論文を作成する。また、発達段階に応じた多様な進路学習として、進路ガイダンス、卒業生による進路相談会、卒業生社会人による講話会なども実施している。

・聞き取り調査結果

[質問 1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[回答]

キャリア教育として、長年にわたり中学3年生で職場体験、高校1年生で企業訪問を行っている。その事前学習として、学校図書館で、ペリかん社『なるにはBOOKS』等を各自が読んで、仕事を調べ、職業を理解し、企業訪問へつなげるという取り組みが行われている。(図 5-14)

しかし今年度に入り、職場体験と企業訪問は、訪問先が異なるだけで区別がつかなくなってきたこともあり、中学3年生に一本化する方向にある。

仕事調べの資料提供にあたり、変化の激しい職種、必要な資格等に対応するため、概ね図書では5年、雑誌では2年を目途に更新している。

I 企業訪問の日程

～5月下旬	<u>職業調べ</u>
5月下旬	企業訪問ガイダンス
6月1日～	訪問希望先企業に電話をかける ※ 生徒が自分で、インターネットで会社を検索し、会社のホームページから高校生の企業訪問を実施しているか確認する
6月下旬	訪問企業調査
7月上旬	訪問企業と日程を調整
7月中旬	訪問企業に依頼文章を校長名で送付
8月 (夏期休業中)	企業訪問を実施
8月30日	報告書提出
2学期	総合の時間に訪問企業の報告発表

II 目的

- ・職業についての一連の学習のまとめとして、職場見学を行い職業に対する興味・関心を深める
- ・実際に働いている人々に触れ、話を伺うことによって、生き方の一端を学び、自分のこれからの進路選択に役立てる

III 内容

会社・事業所を訪問、見学を行い、事前学習に基づいて質問（インタビュー）を実施する。もし可能であれば、実際の体験を行い、学習を深める。

訪問後に班ごとにまとめを行い、レポートを作成し、ノートに記録として残す。

 部分で、学校図書館を活用して職業調べを行う。

図 5-14 高校1年生 企業訪問ガイダンス 資料

(出典 E校の資料をもとに筆者が抜粋して作成)

[質問 2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

日常の学校での勉強に、その意義を見出せ、授業への集中度が向上した。中学生や高校 1 年生にも、大学や社会への関心度が高まった。

生徒が書いた企業訪問のお礼状に、「私たちの質問〇〇への答え〇〇は、将来を考える上で大変参考になった」「〇〇で働きたい」など、その仕事や企業への理解を深めた様子が見うけられた。

[質問 3] その際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

中学 3 年生の職場体験と高校 1 年生の企業訪問を一本化する方向にある。今後は、外国の企業で働くことや、外国人のスタッフと働く可能性が高くなってきていることもふまえて、学校の教育方針が英語コミュニケーション力をつけるグローバル教育へシフトしている。グローバル化も含め、仕事が増えたため人手不足である。教科の授業時間増により、キャリア教育活動の時間の制約が年々大きくなっており、今後も続けていけるか不安がある。

仕事や職種の変化が激しく、今のキャリア教育が、5 年後、10 年後に通用するのかが疑問である。

図書館内に設置してあるパソコンで検索はできるが、生徒にタブレット端末を 1 台ずつ持たせるようになってから、学校図書館の利用が目減りしたように感じている。

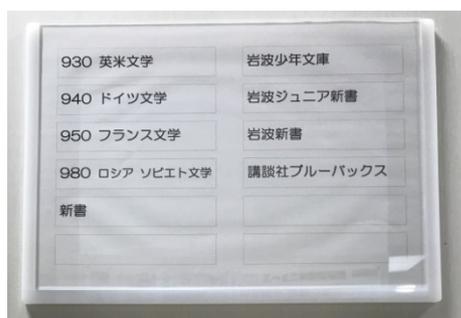


図 5-15 新書書架 案内表示
(出典 2017 年 11 月 18 日 筆者撮影)



図 5-16 新書の書架
(出典 2017 年 11 月 18 日 筆者撮影)

5.2.2 支援に課題を抱えている学校図書館の事例

(1) 事例 6 F 校

・調査の概要

(ア) 学校司書

2017年11月14日 10時30分にF校を訪問し、約15分間、学校図書館担当者である常勤学校司書にインタビューをした。質問に対する回答は、録音したボイスレコーダーからおこしたものを筆者が要約したものである。

(イ) 教員

2017年11月21日 13時20分にF校を訪問し、約30分間、高校3年生の担任でキャリア教育担当（進路担当）でもある教員にインタビューをした。この教員は、司書教諭資格を持っているが、勤務校では司書教諭の発令はない。質問に対する回答は、録音したボイスレコーダーからおこしたものを筆者が要約したものである。

・学校の概要

高校生生徒数465名の併設型中高一貫校である。殆どの生徒が4年制大学に進学する。約25%がAO入試・公募推薦、25%が指定校推薦、50%が一般入試で進学する。

・キャリア教育の実施状況

組織としてはキャリア教育を行っていないが、各学年の進路指導部が講演会等を実施している。

高校1年生は、卒業生講話としてOGを招いて、ホームルームで話をしてもらう。高校2年生は、大学出張講義として、大学の先生方による講義、パネルディスカッションなどが行われている。また、外部業者による入試情報ガイダンスも行っている。その他、小論文指導、面接指導等を各学年で行っている。

・聞き取り調査結果

(ア) 学校司書

[質問1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[回答]

学校図書館として、生徒が小論文や面接にのぞむ際に利用できる資料を用意しておく。

事前に必要な資料リストをくださる先生には、資料を準備して別置しておく。

資料を自分で探せない生徒とは一緒に探す、いくつか選んで示すなどの支援をしている。特に、時事問題や世間のニュースが題材の時、支援することが多い。

[質問 2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[回答]

図書館の資料を使って小論文や面接にうまく利用できた時、「たすかった」「ありがとう」という声がもらえる。

普段は図書館を全く利用していなくても、小論文や面接の支援をきっかけに利用してもらえるようになった。

[質問 3] その際の問題点や課題等があったら教えてください

[回答]

先生によっては、必要な資料をリストアップして事前に渡してくださることもあるが、大半は、期限ぎりぎりに必要にせまられた生徒が駆け込んでくるという状態である。早めにわかっているならば準備ができるものもあるが、適当な資料が準備できないこともある。教員からの要望がない、または遅い。年度により、また担当の先生により利用状況が異なるので、事前に準備ができない。先生と密に連携を取りながら、ある程度の資料の充実が必要だと思う。

生徒が小論文等の課題のプリントを持って図書館に来た時、資料を探すだけでなく、小論文のテーマ決めから相談を受けることがある。学校司書として、指導にどこまで踏み込んでよいのか微妙である。

(イ) 教員

[質問 1] キャリア教育において、学校図書館と連携した活動を行っていますか？

[回答]

キャリア教育における学校図書館との組織的な関わりは全くない。教員や生徒の個人的な利用にとどまっている。

[質問 2] 連携した活動を行っていない場合は、その理由を教えてください

[回答]

学校図書館に期待をしていないので、キャリア教育との連携も行っていない。

例えば、ペリかん社の『なるには BOOKS』等のキャリア教育関連図書が古い年代のまま更新されていない。さらに、文学・読み物はあるが、新書が更新されていない。そして、

図書館の座席が使いづらい。キャレディスクが配置され、グループ学習等に対応できる机が1台しかない。1クラスが授業中に図書館で資料を自由に使うことができれば、購入希望をあげて利用することも考えるが、今の状況では難しい。

図書館利用を念頭においたカリキュラム、学校図書館を核とした学びの体制が本校にはない。悪循環。キャリア教育で学校図書館を活用するには、1年間もしくは高校3年間を見通したプログラムが必要だがない。時間的にもできない。進路指導部は大学進学に特化しており、学部選択の材料は、各教室に配置された雑誌『蛍雪時代』になっている。職業に関する教育は、高等教育に丸投げ状態。生徒があまりに仕事を知らないので、高校3年生に、本来なら高校1年か2年で行う職業レディネステストを、ロングホームルームの空き時間に実施した。

大学のAO入試のレポート作成のための資料を、学校図書館ではなく、地元の公共図書館で準備していた教員がいる。レポートのテーマは「ハンセン病」だった。

学校司書の仕事が見えない。例えば、学校図書館から年度当初の図書館利用計画や年度末報告書等が職員会議で示されることがないので、学校図書館に教員の意識が向かない。教員は、学校図書館で何ができるのか、何が頼めるのかわからない、取っ掛かりがない。司書教諭の発令がなく、事務職として採用され職員会議に出られない学校司書の限界か…。

授業で使うためには、シラバスを確認して、学校図書館の活用を位置付けなければならない。

[質問3] 今後どのようにしたら、連携した活動を行うことができると考えますか？

[回答]

今の状態では期待できない。

「困ったことがあったら図書館に行って調べればいい」が普通に言える環境になれば連携の可能性があると思う。

5.2.3 聞き取り調査結果の分析

聞き取り調査の結果を、質問ごとに分析する。

[質問1] 学校図書館で行っているキャリア教育支援の取り組みについて、実施の目的と具体的な内容を教えてください

[分析]

3校とも小論文対策や仕事調べなどに対応した資料提供を行っている。支援がうまくいっているD校、E校では、中高生のキャリア教育で利用されることの多いペリかん社の『なるにはBOOKS』が揃えられており、さらにE校では資料更新の期限も具体的に定めている。一方、F校では、教員から『なるにはBOOKS』や新書が更新されていない」という

意見があげられている。変化の激しい社会に対応することが必須のキャリア教育支援においては特に、資料を収集するだけでなく、更新することの重要性がわかる。

さらに、D校では、自校の生徒の実態に合わせた新書リストを作成、提供、紹介した本をブックトラックに別置するなど、生徒の利用を促す取り組みが行われており、効果的な支援になっている。

D校、E校ともに、学校で行われている一連のキャリア教育計画の中に、学校図書館の活用が位置付けられている。F校では、キャリア教育支援は生徒や教員個人に対してであり、学校や学年のカリキュラムの中では行われていない。

[質問2] 取り組みによる効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[分析]

D校、E校では、図書館資料を利用したことにより、生徒の進路が明確になったり、大学や社会への関心が高まったりしている。さらに、D校では、新書から読書の幅が広がり、今まで本を読まなかった生徒が、進んで読めるようになった例もみられている。

また、D校、F校では、普段は殆ど学校図書館を利用しない生徒が、学校図書館を利用するようになったという効果もみられた。

[質問3] その際の問題点や課題等があったら教えてください

[分析]

これまで調査から、資料提供は学校図書館のキャリア教育支援の核であることが明らかになったが、効果的な支援が行われているD校においても、生徒の要望や将来の志望分野に対応できる多様な資料の不足が問題点としてあげられている。

さらに、D校、E校ともに、継続したキャリア教育支援の実践を課題としてあげている。D校では、担当学年の教員が交代することにより、同じ支援を続けていけるか、同じような効果がのぞめるかという不安がみられる。また、E校では、学校教育方針の転換や、仕事や職種の変化への対応など、キャリア教育自体の継続した実施に関して将来的な課題をあげている。

F校では、教員と学校図書館担当者の連携がうまくいっていない様子が見受けられ、支援も場当たりのものに終始してしまっている。F校の学校図書館は、「資料が古いままで更新されていない」という声が教員からあがっているように、「情報センター」として基本的な準備が整っていない。さらに、1クラスで利用できないなど、施設・設備上の課題もみられる。また、司書教諭が発令されていない状況下で学校司書という立場上の制約、学校図書館担当者個人の資質の問題、学校としての学校図書館計画やキャリア教育への取り組みの問題等、連携がうまくいかない様々な要因が考えられる。

[質問 4] キャリア教育担当教員と連携した活動は、具体的にどのように行っていますか

[分析]

D 校では、学校図書館担当者は、新書の読書をすすめるにあたって、取り組み当初から学年の教員から相談を受け、それに対して生徒の読書能力の実態に即した資料提供の提案、実践を行っている。司書教諭である学校図書館担当者が、職員室に席を持ち、職員会議に出席する、学校の広報担当として生徒の進路状況を把握しているなど、日頃から教員と連携を取りやすい関係にあることも、良い結果につながっていると考えられる。

[質問 5] 連携した活動による効果やよかった点、生徒の様子などを教えてください

[分析]

D 校では、キャリア教育での学校図書館利用がきっかけとなり、その後の利用も増えていることがわかる。さらに、新書から他のジャンルへと読書の幅が広がるという効果もみられた。進路を選択する必然に迫られる高等学校だからこそ、キャリア教育と連携した活動をきっかけに、学校図書館の利用促進につなげることができると考えられる。

[質問 6] 連携する際の問題点や課題等があったら教えてください

[分析]

F 校で連携した活動が行えないのは、まず、学校図書館が授業を支援する施設・設備として整っていないことが要因としてあげられる。D 校の学校図書館は、決して最新設備の整った学校図書館というわけではないが、授業を行える施設・設備になっていること、必要な資料の購入と更新がされていること等、最低限の準備が整えられている。その上で、生徒や教員の要望や実態に合わせた支援を行っている点が、D 校が連携を成功させているポイントである。

さらに、学校図書館と教員の連携がうまくとれていない F 校の学校司書は、「教員からの要望が遅い」「生徒が資料を直前になって探しに来るので、うまく対応できない」と述べている。一方、教員は、「学校司書の仕事が見えないので、学校図書館で何ができるのか、何を頼んでよいのかということが、教員にわからない」と述べている。学校司書と教員が、D 校の事例のように、職員室または職員会議等でコミュニケーションの取りやすい関係にあることも必要である。

また支援にあたって、学校司書として生徒の指導にどこまでふみこんでよいのかという立場的な問題もあげられている。学校図書館と授業を繋いで、学校図書館を活用した教育活動を企画、実践する立場の司書教諭が発令されていないことも、連携がうまくいかない要因の一つと考えられる。もしくは、学校司書が学校教育を担う教職員の一人として、職員会議等に参加し、司書教諭的な役割も担うことができるようになれば、連携の可能性も大きくなると考えられる。

さらに、キャリア教育と学校図書館との連携は、学年教員やキャリア教育の担当教員により変わってくる可能性がある。キャリア教育担当教員は、教科担当教員と異なり、校務分掌のため流動的である。連携した活動が成功している D 校においても、その活動を単年度で終わらせるのではなく、多年度にわたり継続していくことが課題としてあげられている。

[質問 7] 学校図書館のキャリア教育支援の教育効果をどのように評価しているか教えてください

[分析]

D 校では、今年度の連携した取り組みの新書の読書により、生徒が自分のキャリアを考えるきっかけにすることができたり、志望理由を小論文や面接で具体的に表現できるようになったりと、それらの効果からうまくいった例として評価している。

学校図書館とキャリア教育が連携することにより、生徒のキャリア形成における主体的で深い学びの実現につながると考えられる。

5.3 まとめ

聞き取り調査の結果の分析から、以下のことが考察される。

D 校、E 校の聞き取り調査結果からわかるように、学校図書館のキャリア教育への支援の基本は資料提供である。生徒の要望や社会情勢に対応して適宜更新された資料を、生徒の実態に合わせて提供することで、効果的な支援ができる。

学校図書館がこうした資料提供を通じて、キャリア教育への効果的な支援を行うことにより、生徒が自己を見直し進路を考えるきっかけになり、生徒の職業や社会への理解につながっていくことが可能である。また、進路選択の必然に迫られた高校生へのキャリア教育支援により、学校図書館の利用を促進することもできる。そのためには、学校図書館がキャリア教育への支援を行う上で、社会の変化と、生徒のニーズや能力にあった資料の提供が必要であるが、それらに対応した多様な資料が十分でない（発行されていない）ことが課題である。さらに、学校教育方針の転換や、担当者の交代などにより、継続したキャリア教育支援の実施が難しいという課題が残った。

学校図書館は、生徒や教員のニーズにあった多様な資料を提供する「情報センター」としての機能と、それらの資料を活用した学びを展開する「学習センター」としての機能を満たし、キャリア教育のカリキュラムの中にその利用計画が位置付けられることで、キャリア教育との連携した活動を行うことができる。キャリア教育の取り組み当初、すなわちカリキュラムの作成段階から学校図書館が関わることで、連携した活動による、より効果的な支援が期待できる。

学校図書館担当者が、キャリア教育支援を行えるだけの資質や能力を備えていることに加え、学校司書が、学校の教育活動を担う一員として職員会議に出席するなど、教員とコミュニケーションのとりやすい立場にあることも重要である。

高等学校図書館が、キャリア教育への効果的な資料支援をし、キャリア教育のカリキュラムの中に学校図書館を活用した計画を位置付け、キャリア教育と連携した活動を行うことにより、生徒のキャリア形成における主体的でより深い学びを実現することができる。

第6章 結論

6.1 研究の要約

本研究は、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにし、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察することを目的とした。

第2章では、学校教育におけるキャリア教育の導入と経緯を整理し、現状と課題を述べた。学校におけるキャリア教育は、児童生徒が将来、自立した社会人として生きていくために必要な能力や態度・意欲を育成することを目指した教育であり、学校の様々な教育活動の中で、学校の特色や、児童生徒の発達段階に応じて体系的・継続的に行われるべきものである。キャリア教育では、「基礎的・汎用的能力」の育成に重きがおかれている。また、一社会人としての自立が迫る高校生にとっては、社会や産業構造の変化に対応したキャリア教育の実践が必須であるといえる。しかし、教育現場では、教員のキャリア教育に対する理解不足や、キャリア教育を行う時間の確保などに課題があるのが現状である。

第3章では、学校教育における学校図書館の役割や、学校図書館担当者の役割と資質を整理し、学校図書館のキャリア教育への支援について述べた。学校図書館は、その設置の目的から学校の教育課程の展開に寄与するものであり、教科横断型のキャリア教育に関しても同様である。キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」の育成においては、生徒や教員のニーズに応じて多種多様な資料を提供する「情報センター」として、学びの支援をすることができる。そして、学校図書館担当者は支援にあたり、十分な資質や能力が必要であり、また「教育指導への支援」に関する職務に携わることも求められている。そのため、文部科学省より「学校司書のモデルカリキュラム」が示され、学校司書の配置についても地方財政措置として予算が計上されるなどの方策がとられている。

第4章では、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにするために、都内私立高等学校の学校図書館担当者に行った質問紙調査結果について述べた。この調査により、高等学校図書館では、キャリア教育支援として、「資料提供」「調べ方の指導」「場の提供」の3つの支援が行われていることがわかった。これらの支援により、生徒の意識・意欲の向上や、関心度の向上がみられ、さらに生徒が進路を考える上での一助となっていることも明らかになった。一方、支援を行う上では、社会の変化に対応した情報の新しい資料を提供することの重要性や、生徒一人ひとりの発達段階に応じた対応が必要などの課題もみられた。キャリア教育と学校図書館との連携した活動が成功している学校の事例には共通して、「キャリア教育が学校の教育方針として推進されており、学校図書館が教育課程へ位置付けられていること」「日常的に様々な教科等で学校図書館を活用した授業が行われており、学校図書館が学習センターとして生徒の主體的・協働的な学びを支援する場になっていること」「学校図書館が情報センターとして、図書のみならず視

聴覚資料やオンラインデータベース等、多種多様な資料を生徒や教員のニーズに応じて提供し、またそれらの情報の活用能力を育成する場となっていること」「学校図書館担当者が、学校の教育方針を理解した上で、その教育を担う一員として学びの支援をしていること」があげられた。

第 5 章では、質問紙調査から効果的な支援やキャリア教育との連携した活動が行われていると明らかになった高等学校の学校図書館担当者と、支援に課題を抱えている高等学校の学校図書館担当者及び教員に行った聞き取り調査結果について述べた。この調査により、学校図書館は、キャリア教育のカリキュラムの中で、生徒の実態に合わせて適宜更新された資料を提供することで、効果的なキャリア教育支援が行えることがわかった。また、学校図書館とキャリア教育との連携した活動により、生徒のキャリア形成における主体的で深い学びの実現につながるだけでなく、学校図書館の利用を促進するという効果もみられた。キャリア教育のカリキュラムの作成段階から学校図書館が関わることで、より効果的な支援ができることも明らかになった。一方、学校図書館のキャリア教育への支援は、その継続性という点で課題が残された。学校図書館とキャリア教育との連携した活動を行うには、学校図書館担当者の資質や能力に加え、特に学校司書が学校の教育活動を担う一員として、学校の中で認識される必要性が明らかになった。

6.2 考察

高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援には、以下の 4 つの条件が必要であると考えられる。

第 1 に、キャリア教育が学校教育方針として推進されており、そのカリキュラムに学校図書館が組み込まれていることが必要である。そして、キャリア教育担当教員がキャリア教育で学校図書館を活用することの有効性を理解することにより、学校図書館とキャリア教育との連携した活動につなげることができる。なお、連携した活動には、その取り組みの計画当初から学校図書館が関わることがのぞましい。

第 2 に、学校図書館が「学習センター」として活用できるような施設・設備を備えおり、生徒の学びの場となっていることである。学校図書館の中で多彩な授業を展開することができるのは言うまでもなく、授業だけではなく、講演会などのキャリアガイダンスに「場の提供」をすることにより、学校図書館は知識や情報をインプットするだけではなく、アウトプットし、共有する場になる。これは、近年、大学図書館で取り入れられている「ラーニング・コモンズ」的な学校図書館の使い方でもある。

第 3 に、学校図書館に「情報センター」として機能する上で十分な資料が揃えられていることである。キャリア教育においては情報の新鮮さは特に大切である。多種多様な資料が適宜更新され、常に利用可能な状態にあることが必要である。その学校の教育の特色や、生徒や教員のニーズに対応した資料が用意されていることも不可欠である。さらに、それ

らの資料を生徒の実態に合わせて、おたよりで広報したり、リストを配布したりするなど、学校図書館から情報を発信することにより、よりよい支援につなげることができる。

第 4 に、学校図書館担当者が司書教諭・学校司書という立場の違いに関わらず、その学校の教育を担う者の一人として、学校の教育方針を理解し、生徒の実態を把握した上で、生徒の発達段階や興味関心に応じた支援を行うことが必要である。学校図書館担当者は、生徒や教員の顕在化しているニーズのみならず、潜在化しているニーズに耳をすませることが大切である。さらに、学校図書館担当者は、キャリア教育支援を行えるだけの十分な資質・能力を身に付けるよう研鑽を積まなくてはならない。また、学校図書館とキャリア教育との連携を成功させるには、特に学校図書館担当者である学校司書が、職員会議に参加するなど、常に教員と情報交換ができる立場にあることも必要であろう。

以上のことから、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援は、「学校の教育方針としてのキャリア教育の推進と、教育課程への学校図書館の位置付け」「学校図書館が学習センターとして機能し、生徒の学びの場となっていること」「学校図書館が情報センターとして生徒や教員のニーズにあった多種多様な資料を提供していること」「学校図書館担当者の十分な資質・能力と、学校や生徒の実態に合わせた支援」が整えば可能であると考察される。そのためには、学校全体の取り組みとして、継続的・体系的なキャリア教育計画を作成し、学校図書館をそのカリキュラムへ位置付けなくてはならない。さらに、学校図書館の更なる整備充実に加え、学校図書館担当者の資質・能力の向上、適正な配置が急務である。

先進校の実践が示しているように、学校教育において中立な立場にある学校図書館は、キャリア教育が特定の教科主導ではなく教科横断型の教育であるがゆえ、より効果的な支援をすることができる。さらに、高等学校図書館とキャリア教育との連携した活動を展開することにより、学校図書館は、学校教育と現実の社会とをつなぐ場所になり得るといえる。

6.3 今後の課題

学校図書館とキャリア教育の連携は、学校図書館とキャリア教育を担当する校務分掌の連携のため、年度によりその担当者が交代することで、継続した実践が難しい。担当者にかかわらず継続して行うことができる高等学校 3 年間に渡った体系的な計画と、その計画への学校図書館の位置付けを明確にする必要がある。そして、学校図書館のキャリア教育への支援をより効果的なものにするには、学校図書館担当者の資質・能力向上のための研修と、特に学校司書が職員会議に参加するなど学校教育を担う一員としての立場の保障が望まれる。

また、高等学校図書館のキャリア教育支援において、多くの学校で新書が利用されていることがわかったが、生徒の要望や将来の志望分野に対応した新書が少ない、または発行

されていない。生徒のニーズに対応できる幅広い分野をカバーした、読みやすい新書の発行が期待される。

一方、高等学校のキャリア教育において進路指導は大きなポイントとなるが、調査結果からわかるように学校図書館と進路指導部との連携は行われていない。資料の収集や提供の上で、どのように差別化を図り、どのように連携をとるのか、また学校図書館の中に進路指導部を包含することの可能性や意義等、今後の研究に委ねたい。

本研究では、東京都内の全日制私立高等学校を事例として、高等学校のキャリア教育における学校図書館の支援の現状と課題を明らかにし、高等学校図書館のキャリア教育への効果的な支援について考察した。今後は、本研究での成果を現場での実践に生かしていくことに加え、都立高等学校や他県の高等学校についても、更なる研究につなげていきたい。

謝辞

本研究をすすめるにあたり、ご多忙のなか質問紙調査にご回答いただきました東京都内私立高等学校の学校図書館ご担当者様、さらに気持ちよく聞き取り調査にご協力いただきました学校図書館ご担当者様をはじめ、キャリア教育ご担当の先生には厚く御礼申し上げます。

また、数々の助言や示唆をくださいましたキャリアアッププログラムご担当の先生方、共に学び、常に励ましてくれたキャリアアッププログラムの先輩、後輩、同期の皆様、本当にありがとうございました。

最後に、研究のいろはもわからないまま臨んだ私を、ここまでお導きくださいました平久江祐司先生には、心より感謝申し上げます。

参照文献・参考文献リスト

- ・ KENNETH B.HOYT. キャリア教育 歴史と未来. 雇用問題研究会. 2005, 278p.
- ・ Yagi Darry T・三村隆男. 日本とアメリカ合衆国のキャリア教育事情：学校はどうやって生徒を仕事やキャリアにつなぐか. 進路指導. 2010, vol.83, no.2, p.3-12.
- ・ 青木毅正. 生徒自身の自律的な生き方を育むために. 月刊高校教育. 2017, vol,50, no.8, p32-35.
- ・ 浅野真紀子. 平久江祐司. 探求的な学習における学校図書館の支援の在り方. 図書館情報メディア研究. 2016, vol.14, no.1, p.1-20.
- ・ 五十嵐弘毅. 進路指導の取り組みと学校図書館. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.28-30.
- ・ 茨城キリスト教学園中学高等学校図書館部. 学校図書館の小論文指導への支援. 学校図書館. 2007, vol.4, no.678, p.81-89.
- ・ 伊吹侑希子. 学校図書館を活用した NIE：小論文指導の実践報告. 日本 NIE 学会誌. 2014, vol.9, p.89-93.
- ・ 今村容子. 日常の業務がキャリア教育につながる. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.17-19.
- ・ 海老原嗣. クランボルツに学ぶ夢のあきらめ方. 星海社 2017, 157p.
- ・ お茶の水女子大学附属図書館. 「持続可能な社会の探究 I」をより楽しむための大学図書館活用術. 2016-03-16.
<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/59088>. (参照 2017-12-10) .
- ・ 木下通子. 読みたい心に火をつけろ!. 岩波書店. 2017, 228p.
- ・ 黒沢紀子. キャリア教育を支える情報活用能力. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.20-22.
- ・ 厚生労働省. 学校教育におけるキャリア形成支援 平成 28 年度 講習テキスト及び参考資料. 2016.
- ・ 国立教育政策研究所. 変わる!キャリア教育. ミネルヴァ書房. 2016, 93p.
- ・ 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター. キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書. 2013-03.
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pdf/ver_all.pdf,
(参照 2018-01-08).
- ・ 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター. キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第二次報告書. 2013-10.
http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pdf_2/rpt-all.pdf,
(参照 2018-01-08).
- ・ 児美川孝一郎. キャリア教育のウソ. 筑摩書房. 2013, 190p.

- ・佐藤照子. キラリ！司書教諭(45) 学習センターのもたらす力：NIE の実践と小論文指導. 学校図書館. 2007, vol.12, no.686, p.76-78.
- ・佐藤理恵. 中高生のためのブックガイド 進路・将来を考える. 日外アソシエーツ. 2016, 246p.
- ・品川女子学院ホームページ
<http://www.shinagawajoshigakuin.jp/01guide/28.html>. (参照 2017-11-25) .
- ・私立中高進学通信. 栄光. 2017.11, vol.292, p18-19.
- ・新版 現代学校教育大事典. ぎょうせい. 2003
- ・鈴木伸一. 学校図書館が支援するキャリア教育の展開. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.25-27.
- ・瀬川ひとみ. 西和賀高校におけるキャリア教育:高校から始める地方創生「いのち輝く百年創造塾」. 月刊高校教育. 2017, vol.50, no.18, p.40-43.
- ・全国学校図書館協議会. 司書教諭・学校司書のための学校図書館必携. 悠光堂. 2015, 255p.
- ・反町京子. 「生き方学習」としてのキャリア教育. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.14-16.
- ・中央大学付属中学校・高等学校ホームページ
<http://chu-fu.ed.jp/campus/library.html>. (参照 2017-11-25) .
- ・中央教育審議会. 今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）. 1999-12-16.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/001.htm, (参照 2018-01-08).
- ・中央教育審議会. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）. 2011-01-31.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）. 2016-12-21.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf , (参照 2018-01-08) .
- ・東京純心女子中学校・高等学校ホームページ
<http://www.t-junshin.ac.jp/jhs/study/active.html>. (参照 2017-11-25) .
- ・成田康子. ブック・ストリート 図書館 キャリア教育って何。：学校図書館の役割から. 出版ニュース. 2010, vol.2206, p.30-31.
- ・西村陽一. 高等学校におけるキャリア教育・進路指導の現状と課題：キャリア教育の充実を目指して. 崇城大学紀要. 2015, vol.40, p.153-162.
- ・藤崎雅子. 兵庫・私立 甲南高校 図書館がリードする中・高一貫の情報活用教育：先進校に学ぶキャリア教育の実践. キャリアガイダンス. 2009, vol.41, no.1, p.44-48.

- ・藤田晃之. 学校種ごとのキャリア教育推進の課題：特集 日常の教育活動の中で行うキャリア教育の実践. 教育委員会月報. 2012, vol.63, no.11, p.18-23.
- ・藤田晃之. キャリア教育基礎論 正しい理解と実践のために. 実業之日本社. 2014, 299p.
- ・藤田晃之. キャリア教育の課題と展望. 月刊高校教育. 2017, vol.50, no.8, p.28-31.
- ・二俣潤也. キャリア教育における学校図書館の活用:聖パウロ学園高等学校の実践から. 学校図書館研究. 2012, vol4, p.125-131.
- ・ペリかん社ホームページ
<http://www.perikansha.co.jp/Search.cgi?mode=NARU&key=0&word=>
 (参照 2017-12-11) .
- ・本田恵子. 三村隆男, 児童期・思春期のキャリア教育の進め方. 教育心理学年報. 2011, vol.50, p.23-24.
- ・本田由紀. 仕事の世界はこれからどう変わっていくのか. 月刊高校教育. 2017, vol.50, no.8, p24-27.
- ・水野操. あと 20 年でなくなる 50 の仕事. 青春出版社. 2015, 221p.
- ・三村隆男. キャリア教育の登場と教育における意義：特集 キャリア教育の実践. 学校運営. 2005, vol.47, no.9, p.11-15.
- ・森智彦. 司書になるには. ペリかん社. 2016, 155p.
- ・諸富祥彦. 「7つの力」を育てるキャリア教育. 図書文化社. 2007, 261p.
- ・文部科学省. 学校図書館を、もっと身近で、使いやすく（リーフレット）. 2017.
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/tosyokan/02sisyokyouyutogakkkousisyo/3gakkou.pdf>, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために. 2004-01-28.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/010.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 国立教育政策研究所. キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書. 2011-03.
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryou/pdf/career_hattatsu_all.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省 高大接続改革 PT. 高大接続改革の動向について. 2017-01-31.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/02/15/1381780_3.pdf, (参照 2018.01.08).
- ・文部科学省. 高大接続システム改革会議「最終報告」. 2016-03-31.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf, (参照 2018-01-08).

- ・文部科学省. 高等学校学習指導要領. 2009-03.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 高等学校キャリア教育の手引き. 2011, 240p.
- ・文部科学省. これからの学校図書館担当職員に求められている役割・職務及びその資質能力の向上方策等について（報告）. 2014-3.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/04/01/1346119_2.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. これからの学校図書館の整備・充実について（報告）. 2016-10.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/10/20/1378460_02_2.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 小学校学習指導要領. 2017-03.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf, (参照 2018.01.08).
- ・文部科学省. 小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために. 2006
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/070815/all.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 第2期教育振興基本計画. 2013-06-14.
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/133637_9_02_1.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 中学校学習指導要領. 2017-03.
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 平成29年度学校基本調査（速報値）の公表について. 2017-12-22.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/12/22/1388639_1.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・文部科学省. 平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について. 2016-10-13.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/_icsFiles/afieldfile/2016/10/13/1378073_01.pdf, (参照 2018-01-08).
- ・リクルート進学総研. 「2016年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書. 2017-02.
<http://souken.shingakunet.com/research/2016shinrohoukoku.pdf>, (参照 2018-01-08).
- ・若者自立・挑戦戦略会議. 文部科学省. 厚生労働省. 経済産業省. 内閣府. 若者自立・挑戦プラン. 2003-06-10.
<http://www.meti.go.jp/topic/downloadfiles/e40423bj1.pdf>, (参照 2018-01-08).
- ・私のしごと館. キャリア教育と私のしごと館. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.36-38.

- ・渡辺三枝子. 学校教育とキャリア教育の創造. 学文社. 2010, 176p.
- ・渡辺三枝子. 新版・キャリアの心理学. ナカニシヤ出版. 2007, 227p.
- ・和田美千代. 「読書」から始める課題研究. 学校図書館. 2006, vol.9, no.671, p.33-35.

()

4. 学校図書館のキャリア教育支援の内容について教えてください。

(1) 学校図書館でキャリア教育に関する資料はどのくらい収集していますか？

図書 約 () 冊

雑誌 約 () 部

新聞 約 () 部

その他の資料 どういったものをどのくらい収集しているか教えてください

()

資料の収集に関して特筆する点があったら教えてください

(2) キャリア教育関連資料の生徒の利用状況を教えてください

① よく使われている ② 時々使われている ③ ほとんど使われていない

(3) キャリア教育関連資料の展示コーナー等を設置していますか？

① 設置している ② 設置していない ③ これから設置したい

(4) キャリア教育関連資料のリスト、パスファインダー等のツール類を作成していますか？

① 作成している ② 作成していない ③ これから作成したい

(5) キャリア教育担当教員と連携した活動や授業等を行っていますか？

① 行っている ② 行っていない ③ これから行いたい

(6) キャリア教育担当教員と連携した活動を行っている場合、具体的にどのようなことをしているのか教えてください。

(7) 学校図書館以外にキャリア教育に関する資料を配置しているか教えてください。

- ① 配置している ② 配置していない

配置している場合、どこに配置していますか。また資料をどのように管理しているか教えてください

(8) キャリア教育支援を行ったことによる効果やよかった点があったら教えてください。

(9) キャリア教育支援を行う上での問題点や課題等があったら教えてください。

本調査では質問紙調査の後に聞き取り調査を予定しております。聞き取り調査にご同意いただける方は、以下に学校名と氏名をご記入ください。

なお、お書き頂いた学校名と氏名が公表されることはありません。また回答者のプライバシーには十分に配慮いたします。

学校名_____お名前_____

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。